

環境経営レポート

2023年版

〈2022年3月1日～2023年2月28日〉



来ハトメ工業株式会社



1.	はじめに	2
2.	会社概要及び環境報告の基礎情報	3
	1) 登録事業者の概要	
	2) 沿革①(日本の戦後と共に歩んだ当社77年の軌跡)	
	3) 沿革②(当社環境活動のあゆみ)	
	4) 当社従業員紹介	
3.	 経営責任者のコミットメント	15
	1)  環境経営方針	
	2)  品質方針	
	3)  2022年度の変更点	
4.	 実施体制及びガバナンス	17
	1)  EA21環境経営組織図	
	2)  役割責任及び権限	
	3)  2022年度の変更点	
	4)  ガバナンス(課題とチャンス、マテリアリティ分析)	
5.	PDCAで見る環境関連法規遵守の取組	19
	1)  法規制遵守関連の環境経営計画と関連SDGs	
	2)   法規制遵守状況のチェック結果	
	3)   実際の取組	
	4)  違反・訴訟の有無	
	5)  法規制の遵守状況の評価と次年度以降の取組内容	
	6)  法規制遵守の取組に関する代表者の評価・指示	
6.	PDCAで見る緊急事態の想定とその対応策	25
	1)  想定させる緊急事態	
	2)  環境経営計画とSDGs	
	3)  緊急事態の対応及び訓練状況	
	4)  緊急事態の想定・訓練の評価と次年度以降の取組内容、事務局からの提案	
	5)  緊急事態の想定・訓練に関する代表者の評価・指示	
7.	 数字で見る2022年度環境負荷の全体像	27
	1)  過去5年間の環境負荷の実績	
	2)  2022年度の実績と目標達成状況	
	3)  2022年度マテリアルバランス	
8.	PDCAで見る2022年度環境活動	29
9.	 代表者レビュー	53
	1)  全体的な感想	
	2)  指示	





来ハトメ環境トピックス2022 目次

①	SDGs6年生 当社の通信簿～2022年度「私のSDGs」ふり返り(個人の取組)編～	13
②	「疑心」が「自信」に変わった日～『脱炭素チャレンジカップ2023挑戦記』(1)、(2)	33、56
③	長年の努力、ここに結実!～弊社社長 来 昌伸 八潮市優良技術者及び技能者に認定される～	40
④	環境開示の形あれこれ～自社ウェブサイトからラジオ出演まで～	46
⑤	届け!金の卯たちへの魂のメッセージ～『埼玉県環境学習応援隊』出前授業～	51

アイコン () の見方について

エコアクション21ガイドライン(2017年版)要求事項の適合性を明確にするために、主にタイトルの前等に4つのアイコン(Plan(計画)、Do(実施)、Check(確認)、Act(見直し))を付けています。

4つのアイコンは、それぞれ、以下の様な取組であることを示すものです。

-  : EA21ガイドライン要求事項1～6(計画の策定(Plan))に該当する取組であることを示します。
-  : EA21ガイドライン要求事項7～12(計画の実施(Do))に該当する取組であることを示します。
-  : EA21ガイドライン要求事項13(取組状況の把握及び評価(Check))に該当する取組であることを示します。
-  : EA21ガイドライン要求事項14(全体の評価と見直し(Act))に該当する取組であることを示します。

EA21代表就任にあたって

本年度より、EA21代表者が会長来 満(兄です)から私、代表取締役 来 昌伸に代わった。

「環境経営レポート」の第一面である「はじめに」の表紙を担当することで、何か嫌な重圧を右肩の奥の方を感じている。

私が当社代表に就任して、早いものでもう10年の月日が経った。色んなことが頭の中からよみがえって来るが、特に就任早々、お客様からの来ハトメ工業(株)史上最大の値下げ攻勢に見舞われ、主力製品のほとんどについて5%~15%の値下げを受け入れざるを得なかった悪い記憶が今でも脳裏をかすめている。良い記憶はすぐに忘れるものなのに。

それから社員の給与を一律10%削り、我々役員も30%削減した。

こんな状況が2~3年続いたが、神様は会社を見捨てはしなかった。きっかけになったのは、ある商品の登場である。

リベットは平成14年から取り扱っていて、大変利益率の高い商品である。その客先から、段付きのリベット開発を要請された。

すぐに金型設計に取り掛かったが、非常に金型精度が要求される製品で、金型製造には大変な困難が想像されたが、当社の社員は難なくこれをこなした。私が何よりうれしかったのは、この製品に対し、社員一人ひとりが、心から応援してくれたことだ。いかに来ハトメには良い話が少なかったかと痛感した次第である。

約半年かけて開発に成功したが、その2年後、同様の段付きリベットの注文が入り、社内では大いに盛り上がったものである。

又、同時期に付加価値の高い製品開発が始まった。これはcpk1.67という高度な品質管理が要求される製品であるが、社員一丸となってこれに取組み、現在では、出荷数が30%を超えるヒット製品となり、大いに業績を支えている。

その他、以前より労働生産性をいかに上げるかという問題意識を、社内でも共通認識として徹底し、今では1日2時間の時短を成功させ、採算製造数を約2,000万ヶ縮小させている。

話が少々長くなりました。要は「社長業を長くやっていると苦労は多く眠れない夜も多々あるけれど、楽しい事、ワクワクすることもたまにはありますよね。」というお話しでした。

来ハトメ工業株式会社
代表取締役(EA21代表者) 来 昌伸

2.会社概要及び環境報告の基礎情報

1) 登録事業者の概要

(1) 事業者及び代表者名(報告対象組織)

事業者名 : 来ハトメ工業株式会社
代表者名 : 代表取締役 来 昌伸

(2) 所在地(本社・工場共に下記住所)

〒 340-0822
埼玉県八潮市大瀬203-1
URL <http://www.rai-hatome.co.jp>

(1)及び(2)の全組織・全活動をエコアクション21への取組の対象範囲とする

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者名 : 環境管理責任者 石原 隆雅
連絡先 : TEL 048(995)5138 FAX 048(996)0580
e-mail yashio@rai-hatome.co.jp

(4) 事業内容

アルミ製コンデンサ部品及びその他の部品類の製造・販売

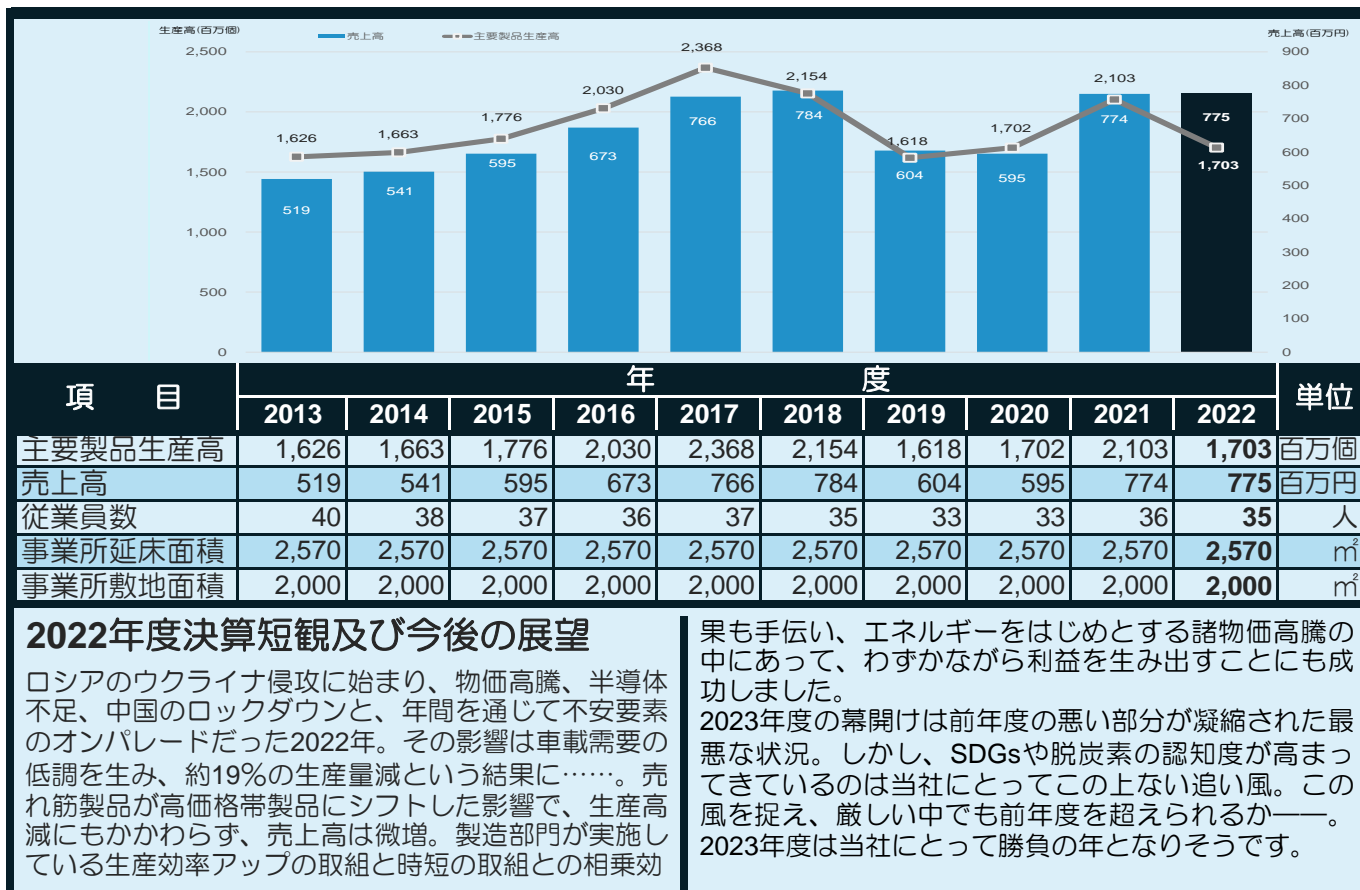
(5) 創業年月日

1946(昭和21)年3月6日

(6) 資本金

3,000万円

(7) 事業規模



(8) 当社主力製品並びに主要取引先

● アルミ電解コンデンサ用アルミケース(売上構成比99%)



我々の豊かな暮らしを支える家電製品や自動車。これらの心臓部とも言うべき基盤部分で、実は当社の製品が活躍していることを、皆様は御存じでしょうか？

電子基板のあちこちで、独特の存在感を放つアルミ電解コンデンサの骨格部分とも言うべきアルミケースこそ、当社の主力製品！なのです。

主要御取引先： 日本ケミコン株式会社様
ルビコン株式会社様 他

● 建築金物(写真左)、香水プッシュボタン・ネジ(写真右)(売上構成比1%)

当社が得意とする「アルミ深絞り加工」は、アルミ材料を円筒形に加工する技術。

このアルミ深絞り加工の応用によって誕生したのが、これらの製品群。

主要御取引先： カネダ株式会社(建築金物)
(有)都プレス工業所(香水)

上記御取引様を通じ、それぞれ、大手メーカー様へ納入しています。



(9) 当レポートの報告対象期間

2022(令和4)年3月1日～2023(令和5)年2月28日

(10) 当レポートの基準・ガイドライン等

- エコアクション21ガイドライン2017年版(環境省) 及び
- 環境報告ガイドライン2018年版(環境省)

(11) 当社環境報告の全体像(3つの社内媒体と充実の外部媒体)

■ 社内媒体

● 紙媒体

● 当社Webサイト

● Youtubeチャンネル

■ 外部媒体

● エコアクション21中央事務局HP

● CSR図書館.net

各媒体右端のQRコードより各媒体の当社環境情報をご覧頂けます。是非ご活用ください。

2.会社概要及び環境報告の基礎情報

2) 沿革①(日本の戦後と共に歩んだ当社の77年の軌跡)

- | | | |
|-------------|----|-------------------------------|
| 1946 (昭和21) | 3 | 東京都荒川区三河島にて「來商店」創業 |
| 1952 (昭和27) | 7 | 「有限会社來商店」と改組 |
| | 8 | 東京都足立区柳原に協力工場設置 |
| 1953 (昭和28) | 10 | 東京都葛飾区奥戸本町に協力工場設置(当時の従業員数：4名) |
| 1956 (昭和31) | 6 | 東京都台東区入谷に移転(主力製品：時計バンド、磁気バンド) |
| 1962 (昭和37) | 12 | 「有限会社來ハトメ店」と改称 |
| 1963 (昭和38) | - | このころ、プラグ業界へ進出する |
| | 10 | 電解コンデンサ用アルミケース生産が始まる(当初は外注) |
| 1966 (昭和41) | 3 | 東京都葛飾区新宿町に「金町工場」設立 |
| 1971 (昭和46) | 4 | 東京都台東区入谷1-33-5に本社移転 |
| 1974 (昭和49) | 4 | 來ハトメ工業株式会社と改組。資本金1,000万円 |
| 1975 (昭和50) | 3 | 増資。資本金2,500万円に |
| 1990 (平成2) | 3 | 本社機能を全て八潮工場へ移管 |
| 1996 (平成8) | 3 | 増資。資本金3,500万円に |
| | 6 | 「ガラス容器用蓋」を開発。特許取得 |
| 1998 (平成10) | 3 | 鉄、真鍮から撤退、アルミ材料専門メーカーになる |
| 2004 (平成16) | 1 | 炭化水素洗浄設備を導入(業界初) |
| 2005 (平成17) | 7 | ISO9001:2000の認証取得 |
| 2007 (平成19) | 3 | 年間売上高10億円を達成 |
| 2010 (平成22) | 6 | エコアクション21認証取得 |
| 2017 (平成29) | 7 | 新製品「段付きリベット」量産開始 |
| 2018 (平成30) | 7 | ISO9001:2015への移行完了 |
| 2021 (令和3) | 5 | 中小企業庁「事業継続力強化計画」認定を受ける |
| | 7 | 埼玉県経営革新計画の承認を受ける |
| 2022 (令和4) | 11 | 弊社代表取締役 昌伸、八潮市優良技能者表彰を受ける |



弊社をもっと知りたい方は、ぜひ弊社ホームページまで！















弊社ホームページでは更に詳細な弊社の歴史から、弊社が受賞した各種表彰制度への挑戦秘話や授賞式ウラ話なども公開しています。ここではお伝えしきれなかった情報にも出会えるかも……？宜しければ、ぜひお越しください。



沿革ページQRコード

3) 沿革②(当社環境活動のあゆみ)

History of Reports レポートの歴史	2010 (平成22)	9 エコアクション21認証取得
		10 環境コミュニケーション大賞の存在を知り「5年で大賞」の目標を掲げる
	2012 (平成24)	2 第15回環境コミュニケーション大賞環境活動レポート部門奨励賞受賞
	2013 (平成25)	3 第16回環境コミュニケーション大賞環境活動レポート部門環境大臣賞受賞
	2014 (平成26)	6 『平成25年版環境白書』(環境省)にて当社事例紹介される
	2015 (平成27)	10 『日経エコロジー11月号』(日経BP社)にて当社事例紹介される
	2016 (平成28)	2 第18回環境コミュニケーション大賞環境活動レポート部門優良賞受賞
	2017 (平成29)	3 第17回彩の国埼玉環境大賞優秀賞受賞
	2018 (平成30)	7 『埼玉ビジネスウォッチ』(テレビ埼玉)にて当社事例紹介される
	2019 (平成31・令和元)	8 「環境 人づくり企業大賞2014」大賞(環境大臣賞)受賞
	2020 (令和2)	12 『中小企業が環境をダシに儲ける本』(日経BP社)にて当社事例紹介される
	2021 (令和3)	2 第19回環境コミュニケーション大賞環境活動レポート部門優秀賞
	2022 (令和4)	5 「環境 人づくり企業大賞2015」優秀賞受賞
	2023 (令和5)	2 第20回環境コミュニケーション大賞環境活動レポート部門環境大臣賞受賞
		9 国連持続可能な開発目標(SDGs)ケーススタディ(環境省)に参加
		2 第21回環境コミュニケーション大賞環境活動レポート部門優秀賞受賞
		1 『各月刊 地球温暖化』(日報ビジネス社)にて当社事例紹介される
		2 第22回環境コミュニケーション大賞環境経営レポート部門環境大臣賞受賞
		2 『環境経営者 2020年2月号』にて当社事例紹介される
		2 環境コミュニケーション大賞環境経営レポート部門殿堂入り
		2 第24回環境コミュニケーション大賞環境報告部門優秀賞受賞
		10 中小企業の中長期の削減目標に向けた取組可能な対策行動の可視化モデル事業(環境省)参加
		2 エコアクション21オブザイヤー2021ソーシャル部門銅賞受賞
		2 脱炭素チャレンジカップ2023環境大臣賞(グランプリ)受賞

2.会社概要及び環境報告の基礎情報

4) 当社従業員紹介

(1) 弊社を支える「名プレス工達」～プレスオペレーター～


















 加茂 隆弘	① 17年目 ② — ③ 廃棄物(事業系一般廃棄物)、緊急事態(油漏出訓練) ミスなく仕事する。 安全運転する。 ④ 運動する <div style="float: right; text-align: right;">  </div>
 加藤 直	① 17年目 ② — ③ 廃棄物(廃アルミ)、環境ボランティア 買い物はマイバック、マイバスケ持参で。 ④ 公共料金の無駄を省く。 <div style="float: right; text-align: right;">  </div>
 田辺 栄一	① 17年目 ② — ③ CO ₂ (電力) 食品ロスをなくす。 ④ 車をできる限り使用しない。 水を大切に使用する。 <div style="float: right; text-align: right;">  </div>
 グエン ヴァン トゥアン	① 6年目 ② — ③ CO ₂ (LPG) 電気を大切に使う。 <div style="float: right; text-align: right;">  </div>
 ホアン バン ズン	① 2年目 ② — ③ 法規制(騒音測定) エコバックの使用を継続する。 <div style="float: right; text-align: right;">  </div>
表の見方  顔写真 氏名	① 勤続年数 ② 社内役職 ③ エコアクション21担当項目 ④ 主な私のSDGs(SDGsに関する個人目標※) 期間:2020年3月～2021年2月 ※ 目標がアイコン4個以上の場合は代表的なもののみの記載となります。 <div style="float: right; text-align: right;"> 主な SDGs アイコン </div>

(2) 金型製造、修理のスペシャリスト達～金型製造・修理～

 <p>来 昌伸</p>	<p>① 47年目 ② 代表取締役社長</p> <p>③ EA21代表者、地域貢献(環境ボランティア)</p> <p>④ コンビニ募金の更なる継続。 会社内の古くなった機械の更新。 不良低減の更なる継続。</p> 
 <p>有山 浩一郎</p>	<p>① 39年目 ② 取締役工場長</p> <p>③ 廃棄物(紙くず)</p> <p>④ 町会のゴミ0運動参加。 町会の防犯パトロールへの参加。 皆が腹たきやすい環境づくりをする。 エコドライブを心掛ける。</p> 
 <p>井出 学</p>	<p>① 26年目 ② 製造課長 兼 副工場長</p> <p>③ 廃アルミ(材料歩留まり)、廃棄物(廃ウエス)</p> <p>④ エコ運転を心掛ける。 色々な人と仲良くする。 家の手伝いをする。</p> 
 <p>山崎 洋幸</p>	<p>① 25年目 ② 係長 兼 安全衛生推進者</p> <p>③ 法規制(労働安全衛生)</p> <p>④ 車を使わず自転車通勤する(CO₂削減) 買い物袋をリユースする。 家電製品をエコ仕様のものにする。</p> 
 <p>宮本 哲次</p>	<p>① 17年目 ② 主任</p> <p>③ 水、有害化学物質(啓発教育)、環境ボランティア</p> <p>④ エコ、地球環境に優しい商品を購入する。 ボランティア活動に参加する。 引続き感染症対策を怠らない。</p> 
 <p>来 尊重</p>	<p>① 14年目 ② 主任</p> <p>③ EA21製造部門責任者、CO₂(ガソリン)、環境ボランティア</p> <p>④ マイカーをメンテナンスして長く乗る。 リサイクルショップの有効活用。 個人店で買い物や飲食をする。 常に整理整頓を心掛ける。</p> 







2.会社概要及び環境報告の基礎情報

(3) 「脱脂洗浄」以上の価値の追求 ～洗浄工程～

 来 淳一郎	①	26年目	②	営業課長				
	③	化学物質(潤滑油)						
	④	水の無駄な使用を減少させる。						
		エコな運転を心掛ける。						
無駄な洗浄をしない。								
 ガヤルラン ショウジ	①	2年目	②	—				
	③	CO ₂ (電力)						
	④	プラスチック製品の使用をひかえる。						
		洗濯をするときには、お風呂の残り湯を使う。						

(4) 営業、検査から雑用までもこなす「何でも屋」～2F管理部門～

 来 満	①	53年目	②	取締役会長 兼 管理部長				
	③	継続的改善						
	④	朝、会社の前のゴミ拾いを継続実施。						
		食事のカロリー制限と運動の継続実施。						
土、日に1時間程度、やや速足で歩く。								
昼の弁当、食べない分は他の人にあげる								
 佐々木 勝	①	30年目	②	管理課長				
	③	EA21管理部門責任者、緊急事態(避難訓練)他						
	④	水筒持参を徹底する。						
		賞味期限、消費期限が近いものを買うようにする。						
障害者への見る目と意識を変えたい。								
昨年度の個人目標を継続する。								
 石原 隆雅	①	18年目	②	課長 兼 ISO9001管理責任者				
	③	EA21環境管理責任者、法規制、生物多様性他						
	④	どんなに仕事で遅くなくても毎日勉強する。						
		今年も毎日一万歩以上歩き続ける。						
積極的な営業活動で新規顧客獲得。								
後輩社員に自分の仕事を伝承する。								
 来 博行	①	11年目	②	主任				
	③	eco検定講座、ペットボトルキャップ収集他						
	④	当社業績向上に努力する。						
		社内の新型コロナウイルス対策を徹底する。						
1日に1回は全社員と話し雰囲気良化に努める。								
引続きマイカーの燃費検証に努める。								

	<p>① 2年目 ② —</p> <p>③ 法規制(業務用エアコン簡易点検)</p> <p>④ 電気と水を節約する。 ごみを分別する。 毎週運動する。 酒、タバコの量に注意する。</p>
	<p>① 1年目 ② 主任</p> <p>③ 廃棄物(紙くず)</p> <p>④ 今年度より「私のSDGs」に挑戦します。</p>
	<p>① 31年目 ② —</p> <p>③ CO₂(電力)、廃棄物(分別)</p> <p>④ 1日20~30分のウォーキングを行う。 油のついた食器は一度拭いてから洗う。 節水、節電を心掛ける。 石油ファンヒーターを温風器に取り替える。</p>
	<p>① 24年目 ② —</p> <p>③ CO₂(電力)、廃棄物(分別)</p> <p>④ スプーンなどプラスチックから木の素材への切り替え。 職場以外は自転車か徒歩で移動。 1週間分の献立を立て食材を使い切る。 職場の作業を男性社員と協力して改善を図る。</p>
	<p>① 24年目 ② —</p> <p>③ CO₂(電力)、廃棄物(分別)</p> <p>④ 災害に対する備えをする。 簡易包装や詰め替えの商品を選ぶ。 家庭菜園をする。 マイバック、マイボトルを持ち歩く。</p>
	<p>① 24年目 ② —</p> <p>③ CO₂(電力)、廃棄物(分別)</p> <p>④ 電気代を節約する。 水を無駄にしない。</p>

2.会社概要及び環境報告の基礎情報

2F管理部門従業員

 <p>三輪 千鶴</p>	<p>① 21年目 ② —</p> <p>③ CO₂(電力)、廃棄物(分別) エコバック使用の継続。</p> <p>④ ペットボトルの分別継続。 無駄な買い物を控える。地産地消に努める。 男性従業員と作業など協力し助け合う。</p> 
 <p>稲葉 エリザバス</p>	<p>① 20年目 ② —</p> <p>③ CO₂(電力)、廃棄物(分別) 車通勤をやめて自転車通勤にする。</p> <p>④ エコバックを持ち歩き、使用する。</p> 
 <p>山本 マリア</p>	<p>① 19年目 ② —</p> <p>③ 備品コスト意識改善他 値引きの商品を買うようにする。</p> <p>④ 歯磨き粉を半分に切って最後まで使う。</p> 
 <p>大小堀 レオナ</p>	<p>① 19年目 ② —</p> <p>③ 備品コスト意識改善他 値引きの商品を買うようにする。</p> <p>④ 歯磨き粉を半分に切って最後まで使う。</p> 
 <p>大西 百合子</p>	<p>① 17年目 ② —</p> <p>③ CO₂(電力)、廃棄物(分別) ペットボトルキャップ収集の継続。</p> <p>④ 太陽光を利用して電気代の節約。 家庭菜園で食費の節約とメニューの充実挑戦</p> 
 <p>田中 ジェバチキ</p>	<p>① 17年目 ② —</p> <p>③ CO₂(電力)、廃棄物(分別) 一生懸命仕事をする。</p> 

	① 16年目 ② — ③ CO ₂ (電力)、廃棄物(分別) 毎日散歩する。 楽しい人生を過ごす。		
坂本ルシール			
	① 16年目 ② — ③ CO ₂ (電力)、廃棄物(分別) 牛乳パックをリサイクルする。		
大塚 アデリーナ			
	① 14年目 ② — ③ CO ₂ (電力)、廃棄物(分別) エアロバイクとウォーキングで健康維持。 洗いをするとき節水に心掛ける。 エコ運転でCO ₂ 削減。		
深井 美樹			
	① 6年目 ② — ③ CO ₂ (電力)、廃棄物(分別) 洗濯洗剤を減らす。		
星野 ウェンディ			
	① 6年目 ② — ③ CO ₂ (電力)、廃棄物(分別) 風呂の水を洗濯に使う。 明るい時は照明を控える。 食べ物を大切に作る。		
佐藤 ジュリタ			
	① 2年目 ② — ③ CO ₂ (電力)、廃棄物(分別) 食品、日用品を使い切る。 近距離の移動には車を使わない。		
伊佐 哲子			

2.会社概要及び環境報告の基礎情報

来ハトメ環境トピックス2022

①SDGs6年生 当社の通信簿

～2022年度「私のSDGs」ふり返り(個人の取組) 編～

6年間を振り返って

6年間——。このワードから小学生を連想してしまうのは、私だけでしょうか？

小学生の6年間、一生の中で体の大きさはもちろん、色々な面で人生の中で一番成長する期間と言えるのかも知れません。

ところで、当社がSDGsをスタートしてから今年でちょうど6年。今回は主に2022年度の「私のSDGs」をふり返り、2022年度の取組の特徴と、この6年間で得ることができた成果を一挙大公開！

冒頭で小学生の成長を引合いに出し、大きくハードルを上げてしまったことをちょっと後悔しつつ、早速始めてみたいと思います。

取組数は順調に成長中

まずは年間の全従業員の「私のSDGs」の目標数(アイコンベース)の合計を記した表から。御覧の通り、初年度から年々増加し、2022年度は前年度から更に11個増の277個で過去最高

年度	アイコン数
2017	143
2018	160
2019	177
2020	236
2021	266
2022	277

SDGs取組数
(アイコンベース)の推移

を見事更新。「従業員数はほとんど変化していないのになぜ？」と、疑問に思われることでしょう。実はこれ、従業員の工夫の成果とも言えるのです。具体的には以下のようなことが大きく影響しているものと分析しています。

- ①新たな目標+今まで掲げた全ての目標に挑戦
- ②チームプレーの増加

①新たな目標+今まで掲げた全ての目標に挑戦
数年前から出現し出した「今までの個人目標を継続する」という目標。「今までの個人目標」ということは、当然多くの目標を含むこととなり、目標数(アイコンベース)の増加には大きく貢献。目標数の増に大きく貢献するだけでなく、従来の取組のレベルアップを毎年目指すこととなるため、個人の質の向上にも大きく貢献しているようです。

②チームプレーの増加
開始当初は「(自分が)〇〇する」といった目標がほとんどだったのに対し、「〇〇と協力する」「〇〇に参加する」といった複数の人や団体と共に行動する目標が多く見られるように

なってきたように感じます。誰かと協働することで自分自身の取組+目標17(パートナーシップ)が追加され、目標数の増加には大きく貢献。事実、取組初年度0だった目標17の取組数は2022年度は14まで増加しています。

SDGsの登場により、持続可能な社会を目指す活動が「個人で頑張るもの」から「みんなで高めていくもの」に変貌した1つの縮図のようなもの、と言えるのかも知れません。

あと、全くの余談にはなりませんが、取組開始当初はほとんどなかった「フードロスを減らす」、「プラスチック製品の使用をひかえる」といった目標に挑戦する従業員が、特にここ2、3年で大きく増えてきたようです。

「食品ロス削減推進法」(2019年10月施行)、「プラスチック資源循環法」(2022年4月施行)と関連分野の法整備が進み、何かと話題になることが多くなったことも少なからず影響しているようにも思われますが、こうしたことに反応する従業員が多いところに、従業員の環境意識の高さを感じ、ちょっと誇らしかったりもします。

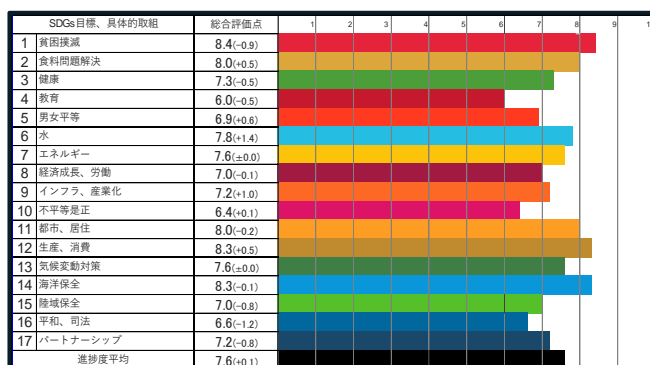
昨年度大コケした評価点は……

次に評価点の推移と2022年度の評価点(毎年この集計がけっこうビクビクもの、だったりします)。

昨年度過去最低を更新した流れを若干引き戻し(?), +0.1点の7.6点。目標は設定したものの計画倒れという状況の従業員が頻発した場合に発生する「5点以下」

年度	※評価点
2017	7.8
2018	7.9
2019	7.9
2020	7.6
2021	7.5
2022	7.6

「私のSDGs」評価点の推移
(2017~2022年度)
※評価点は10点満点



2022年度「私のSDGs」個人目標ふり返り結果

が全く発生しなかったこと、6点台の項目が2021年度は5項目だったのに対し2022年度4項目と1項目減ったことが大きかったのでないかと考えます。

実は、この「私のSDGs」、年初に一度目標を立ててもらったら、あとは1年間の個人戦的なものなので、年度末のふり返りで全従業員からどんな結果が返ってくるか、とても不安だったりもするのです。しかし、毎年各自の目標達成に向けて1年間努力している人が大半。実に素晴らしいと思います(自分を含め、たまにやらかす方もおられますが.....)。

次は、6年間SDGsへの取組を継続した結果、どんな成果を得ることができたのかについて、従業員に聞いた「ナマの声」を御紹介します。

あなたはどんな成果を得ることができましたか？

● 節約につながった

食料(目標2)、水(目標6)、エネルギー(目標7)、SDGsにはそれらの節約に繋がる考え方が多数含まれています。まずはこうしたテーマから取組をスタートし、長期にわたり意識してきた中でそれが習慣となり、気づけば節約が実現できました！という意見が多数寄せられました。

昨年「SDGsを続けてみてこんないいことがあった」というテーマで意見を募集したときにも堂々の最多回答だった節約が成果でもトップ回答。

節約に繋がるということは、SDGsの取組を通じて得られるメリットの王道、と言っても過言ではないようです。

● 精神面の向上につながった

貧困防止(目標1)、ジェンダー平等(目標5)、不平等是正(目標10)といった、今まで気にすら留めていなかった、または見て見ぬふりをしていた部分にSDGsを通じて気づき、当初は強制だったかもしれないものが気づけば習慣になり、いつの間にか他人への優しさがあふれた人へと成長していた。そんな意見も複数の従業員から寄せられています。

「心に余裕が持てるようになった」、「ポジティブマインドに切替えられるようになった」、「今まで嫁の仕事だった皿洗いが習慣になった」、「少しだけ人に対する考えが変わった」等々。

最後の「少しだけ」がとても印象的、だと個人的には思います。「少しだけ」とは言えど、その「少し」を変えるのが、実はとても難しい。でも、SDGsにはその「少し」を変えてくれる力がある！6年間SDGsに引っ張られて突っ走ってきた今、そう強く思います。

● さまざまな実利を得られた

冒頭の節約を筆頭に、「最短距離で目標の資格に手が届いた」、「毎日1万歩ウォーキングを4年間継続できている」など、SDGsから様々な実利を得た、という回答もちらほらと聞かれます。

自身の健康(目標3)の維持・増進や資格取得(教育(目標4)の目標を立て、地道に取り組んだ結果大きな成果を得ることができた、といったところでしょうか。

肉体の鍛錬や勉強といった苦痛を伴う作業の目標を見失わないようにするためにも、SDGsは強い味方！なのかも知れませんね。

● 仲間が増えた。

これは会社の取組全体を通じて感じている成果です。様々な企業、団体、学校、自治体などがSDGsを通じて当社に関心を持って下さり、こうした縁で各所との親交が始まり、現在に至っています。

パートナーシップ(目標17)はSDGsの最も難しい部分と、特に取組の初期(2018~19年頃)にはよく聞いたものです。しかし、SDGsへの取組を通じ、自分自身の目が他者(社)に向くようになると、それと同じく他者(社)からも真剣に見て頂く機会が増え、この縁がパートナーシップへと発展していく。今ではパートナーシップアレルギ、すっかり感じなくなってきました。

● 番外編(最後にちょっとすごい成果を)

ラジオディレクターの方からのオファーを受け、TokyoFMを通じ、来ハトメ工業株式会社の環境及びSDGsに関する取組を広範囲に発信することができた(社長)。

取組の外部への発信(目標12)、しかもFMラジオという公共電波を通じて、なんていうびっくりな成果(?)が最後に登場。実はこれ、「脱炭素チャレンジカップグランプリ企業を取材したい」というオファーを頂いたことにより実現したものの。

(「脱炭素チャレンジカップ」への挑戦については後のトピックで詳述します)。

3.経営責任者のコミットメント



「経営責任者のコミットメント」とは

経営責任者(代表者)のコミットメント(誓約、固い約束)、すなわち、経営責任者が自らの言葉で、全ての利害関係者の皆様と交わす固い約束といった意味になります。

このことから分かるようにこの「経営責任者のコミットメント」は、企業の活動の方向性を決定する、大変重要な事項であるともいえます。



1) 環境経営方針

当社の社業である金属製品製造には、多量の天然資源やエネルギーの使用が不可欠です。そのため、事業を永続的なものとするためには、これらの持続可能な利用に資するための活動、すなわち、環境保全活動への積極的な取組が大きな鍵を握るものと考えます。

当社は、従業員の自主性に基づく環境保全活動を通じ、環境負荷の低減と御得意先様の満足、更には従業員の成長を実現させつつ、社業を持続可能なものとするを経営の重要課題の一つとしてとらえ、次の行動指針を定めます。

- 1 事業活動に伴う環境負荷を低減し、環境への影響を最小限にとどめるために、次の取組を行います。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減

2030年度に2013年度比95%削減
2035年度カーボンニュートラル
 - ② 分別排出、使い切り等による廃棄物排出量の削減
 - ③ 水使用量の削減並びに雨水の有効活用
 - ④ 不良品の発生削減による材料歩留まりの向上
 - ⑤ グリーン調達推進
 - ⑥ 有害化学物質の取扱い禁止並びに化学物質使用量の削減及び適正管理
- 2 エコアクション21の取り組みにより環境への取り組みの継続的な改善を図り、活動の質の維持・向上に努めます。
- 3 事業活動に適用される環境法規制を遵守します。
- 4 環境教育・訓練の実施により、全ての社員に環境経営方針を周知徹底すると同時に、環境保全に関する知識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。
- 5 生物多様性に関する従業員教育を実施するとともに、その保全と持続可能な利用のための取組を推進します。
- 6 ボランティア活動等を通じて、地域貢献に取り組みます。
- 7 5Sを徹底し、社内美化及びカイゼン活動に取り組むと同時に、事業活動内に潜む様々なリスクやムダの「見える化」とその排除に努めます。
- 8 全従業員に対し、SDGs(持続可能な開発目標)の周知及び普及に努めると同時に、継続的にSDGsが掲げる目標実現のための活動に取り組みます。
- 9 環境方針等、必要な情報を開示します。

2023年1月1日改訂

来ハトメ工業株式会社

代表取締役(EA21代表者)

来 昌 伸 

この「経営責任者のコミットメント」、エコアクション21ガイドラインにおいても、「環境経営方針」として、しっかり要求事項に含まれています。「環境経営方針」とは、代表者が自らの言葉で定めて誓約するもの。用語の違いこそあれど「経営責任者のコミットメント」が意味するものと全く同じです。

ここでは、「環境経営方針」と同様に、代表者の誓約にあたる「品質方針」も併せて掲載します。



2) 品質方針

御得意先様の満足をもって、我社の満足とする。

御得意先様の満足水準の高度化に対しても常に応えられる様、品質マネジメントシステムを確立し、そのレベルの維持向上に対する努力を継続的に続ける。

2013年3月1日

来ハトメ工業株式会社

来 昌 伸 



3) 2022年度の変更点

● 環境経営方針

2022年度は、以下の2点についての変更を実施しました。

① 二酸化炭素排出量の削減目標見直し(2022年4月5日)

昨年、当レポート中で「2021年度を新たな二酸化炭素排出量の削減目標策定のための準備の年と位置付け、2021年度中に脱炭素に向けた様々な取組及び研究を実施し、その結果を踏まえ、2022年度にカーボンニュートラルも見据えた新たな削減目標を策定する」ことを宣言しました。

こうした宣言を形にするため、2021年度には環境省実施事業である「令和3年度中小企業の中長期の削減目標に向けた取り組み可能な対策行動の可視化モデル事業」に参加。そこで得た専門家からの御助言、国際的な状況を踏まえ、経営層との調整を実施。その結果「2030年度までに2013年度比95%削減、2035年カーボンニュートラル」というより一層チャレンジングな目標の策定に至りました。

② 代表者交代(2023年1月1日)

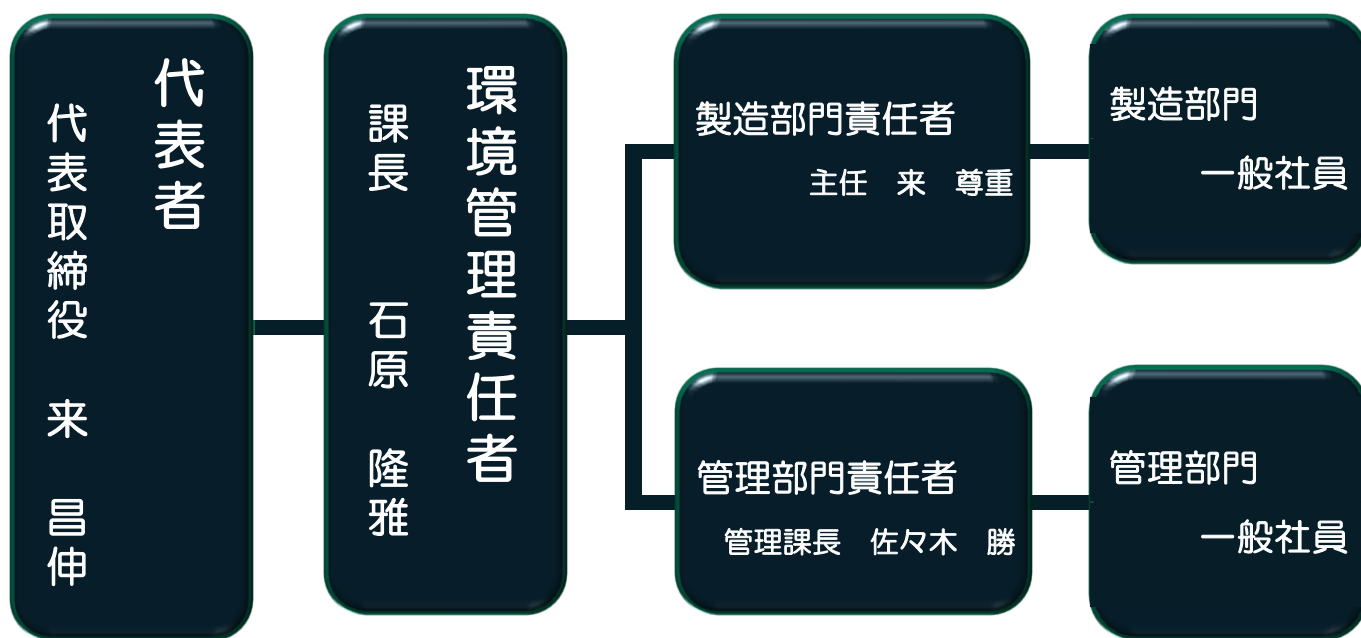
取締役会長 来 満から、代表取締役 来 昌伸へ
代表者の交代を行いました。

● 品質方針

2022年度は、品質方針の変更はありませんでした。

4.実施体制及びガバナンス

Do 1) EA21環境経営組織図



Do 2) 役割責任及び権限

役割(職位)	責任 及び 権限
代表者	1 . 環境経営方針の制定、誓約及び従業員への周知 2 . 環境管理責任者の任命 3 . 環境経営資源の確保 4 . 是正・予防処置発生時のフォロー、並びに指示 5 . 全体の取組状況の評価と見直し、並びに指示
環境管理責任者	1 . エコアクション21活動全般の施策・運用 2 . エコアクション21の実施記録を経営者に報告 3 . 各種環境関連文書の記録の管理 4 . 環境関連法規の遵守に関する教育 5 . 環境経営レポートの作成、公表
製造(管理)部門責任者	1 . 環境経営目標に即した自部門の環境経営計画の策定・実施 2 . 自部門の環境経営計画の実施状況を環境管理責任者に報告 3 . 自部門の一般社員に対する環境教育の実施
(各部門)一般社員	1 . 各担当項目の施策策定及び施策の実施 2 . 各担当項目の実施状況を環境管理責任者に報告 3 . 担当項目以外の環境保全活動への協力 4 . 環境関連法規に関する知識習得及びその遵守 5 . 活動を通じての部門責任者、環境管理責任者への提案 6 . 各家庭における環境教育の実施

Do 3) 2022年度の変更点

2022年度は、以下の2点についての変更を実施しました。

- ① 代表者交代(2023年1月1日・取締役会長 来満 → 代表取締役 来昌伸)
- ② 製造部門責任者交代(2023年1月1日・課長 来淳一郎 → 主任 来尊重)

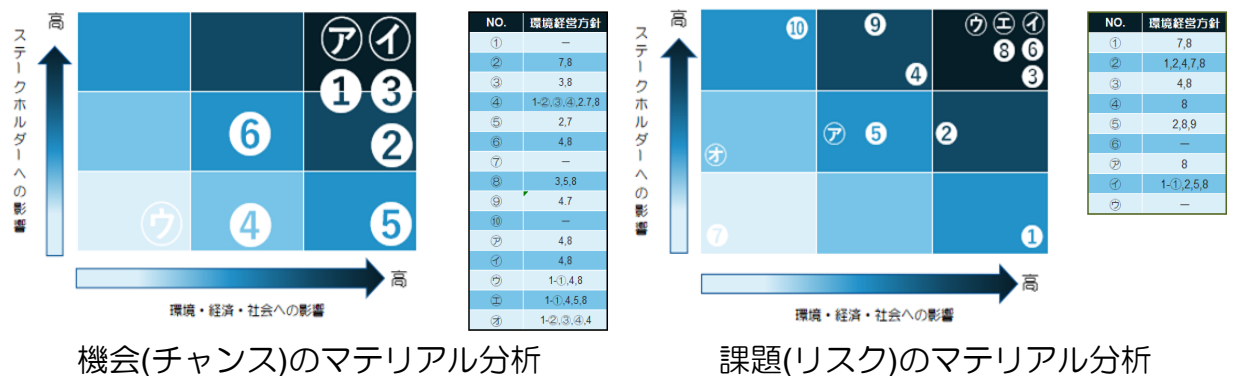


4) ガバナンス(課題とチャンス、マテリアリティ分析)

① 2023年に抽出された課題とチャンス

	機会(チャンス)	課題(リスク)
内部	① 5S推進 ② コスト削減、節約 ③ 人材育成 ④ 営業強化 ⑤ 環境分野での知名度活用 ⑥ 主力製品に将来性あり	① 得意先が少ない ② 5S不十分 ③ 騒音を発生させる ④ コスト意識の薄れ ⑤ 生産能力の限界 ⑥ 火災 ⑦ 設備老朽化 ⑧ コンプライアンス意識の薄れ ⑨ 品質クレーム発生 ⑩ デジタル化の遅れ
外部	㍑ SDGs ㊦ 脱炭素化 ㊧ 製造業の国内回帰	㍑ 新型コロナ問題 ㊦ 自然災害の脅威 ㊧ 豪雨災害の激甚化 ㊨ 地球温暖化 ㊩ 原材料価格、消費者物価上昇

② ①を踏まえたマテリアリティ分析結果



コーポレートガバナンスへ当社の対応

コーポレートガバナンスとは？

「コーポレートガバナンス」。これを日本語に訳すと「企業の統治」。つまり、企業に所属する者自身が、間違いが起こることを防止するためのルールを作り、それを実行することで自らを監視するための取組のことをいいます。

当社の対応～昨年までと今回から～

当社のコーポレートガバナンスについて、昨年までは実際に経営判断を行う経営者の死角を従業員

がいかにか補うか、という観点で毎年一回「課題とチャンス従業員アンケート」実施し、それを踏まえ経営者が最終的に対応すべき課題、チャンスを決するという形をとっていました。今年度からこの形式を変更。従業員アンケートの段階を踏まず、社長が課題とチャンス抽出し、これを基にマテリアリティ分析を実施し課題とチャンスを決しました。

「代表者による経営における課題とチャンス明確化」この言葉通り、より社長の想いが詰まったものになったのでは？そう思います。

5.PDCAで見る環境関連法規遵守の取組

1) 法規制遵守関連の環境経営計画と関連SDGs

取組内容	SDGs	実施責任者
事業活動内に該当する法令の改正状況を年1回調査し、改正あるものについては、法令ファイルの入替を行う。		石原 隆雅
工場稼働時の敷地境界における騒音の状況を確認し、記録する。	 	井出 学 ホアン バン ズン
第一種特定製品(業務用エアコン等)の簡易点検を行う。	 	グエン ミン キエン
環境関連法規のための教育又は教育効果確認のためのテストとそのフォローを行う。	 	石原 隆雅
職場の危険箇所、機械類取扱い時注意点等に関するアンケートを実施し、改善案を提示する(改善案の実施は5Sにて行う)。	   	山崎 洋幸
労働安全衛生に関する教育を実施する。	   	山崎 洋幸

2) 法規制遵守状況のチェック結果

リサイクル関連法の遵守状況

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
自動車リサイクル法	第73条	再資源化預託金等の預託義務	2022年9月に社用車1台廃車。適正に処理が行われたことを確認。	遵法
家電リサイクル法	第6条	事業者及び消費者の責務	2021年7月12日特定家電(テレビ4台)処分。処分時にあってはリサイクル券を交付し適正に処分した。	遵法
資源有効利用促進法	第5条	消費者の責務	2022年度においてはパソコン処分事案は発生していないが、2013年2月の処分時においては適正に処分及び書類の保管を実施。	遵法
プラスチック資源循環法	第4条第1項 第4条第3項	事業者の責務	プラスチック使用製品廃棄物について、ストレッチフィルム、廃樹脂パレットは再資源化事業者の有価売却、その他廃プラスチック類は分別して産業廃棄物として処理。	遵法

廃棄物処理法の遵守状況

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
廃棄物処理法 廃棄物処理法施行令	第3条	排出者責任の原則	委託業者の事業系一般廃棄物及び産業廃棄物許可証の写しを受領、確認済。	遵法
	第6条の2 第6項	事業者の一般廃棄物の処理		
	第12条第5項 第12条第6項	産業廃棄物 委託基準	廃ウエスは平成24年7月1日、水銀使用製品産業廃棄物は2020年6月15日に委託契約書を締結。 許可証の更新についても確認済。	
	令第6条の2 令第6条の2 第4号			
	第12条 第2項	事業者の処理 (産業廃棄物 保管基準)	産業廃棄物保管場所の掲示板を設置し、囲いを設けて保管。 保管場所は屋内、床面はコンクリートであり、飛散、流出、地下浸透、悪臭発散の恐れもない。 水銀使用製品産廃(蛍光灯)については保管場所に仕切りを設置。	
	第12条の3 第1項	産業廃棄物マニフェストの交付	2022年度計4枚のマニフェスト交付事例あり。全て適正に記入され、保管もされている。また、これらの報告については、2022年4月3日、越谷環境管理事務所に送付完了。4月6日受付完了し、控えはファイルにて保管。 マニフェストに関しては2018年分から保管(2017年分2023年4月19日廃棄)。	
	第12条の3 第6項	産業廃棄物マニフェストの保存		
第12条の3 第7項	マニフェストに関する報告書の作成・報告義務			

典型七公害関連法の遵守状況

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
騒音規制法	第5条	規制基準の遵守義務	毎月敷地境界4か所にて測定を実施。 問題がないことを確認。	遵法
	第6条	特定施設設置の届出	届出済(平成26年4月10日許可番号0030号)。	

5.PDCAで見る環境関連法規遵守の取組

典型七公害関連法の遵守状況(続き)

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
振動規制法	第5条	規制基準の遵守義務	未測定(但し、近隣からの苦情は無く、届出時に八潮市役所による検査済)。	遵法
	第6条	特定施設設置の届出	届出済(平成26年4月10日許可番号0030号)。	
八潮市公害防止条例 	第17条の1	特定工場設置の許可	届出済(平成22年5月7日許可番号0031号)。	遵法
	第18条の1	特定工場変更の許可	届出済(平成26年4月10日許可番号0030号)。	
	第20条	掲示板の設置	道路沿いの入口に設置されている(写真参照)。	
悪臭防止法	第7条	規制基準の遵守義務	臭気を感じることも無く、近隣からの苦情もないことから、当社により住民の生活環境が損なわれていないと判断できる。	遵法

その他の環境関連法の遵守状況

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
浄化槽法	第5条	設置等の届出	届出済。	遵法
	第10条	保守点検及び浄化槽の清掃(浄化槽管理者の義務)	分離ばっ気方式、処理対象21人以上(点検3月1回、清掃年1回義務)に対し 点検年4回 (2022.3/4,6/6,9/6,12/7) 清掃年3回(2022.7/27) 実施。問題無し。	
	第11条	水質に関する検査(定期点検)	2022年11月16日に実施 (判定：おおむね適正)	
草加八潮消防組合火災予防条例	第43条	防火対象物の使用開始の届出等	炭化水素貯蔵量980ℓのため 少量危険物取扱所に該当。 八潮市消防本部に届出済。	遵法
消防法	第13条3項	危険物取扱者立会の義務	2022年3月現在、危険物取扱者免状所持者4名。 今後、更に増員予定。	遵法
	第13条の23	保安に関する講習受講義務	2022年度該当者3名。 全員講習受講。	

その他の環境関連法の遵守状況

法令名	条・項	遵守事項	チェック結果	遵守状況
危険物の規制に関する規則	第51条第2項	写真の書換え	2022年度該当者2名。それぞれ書換え完了。	遵法
消防法施行規則	第33条の5			
フロン排出抑制法	第16条第1項	第一種特定製品の管理者の判断の基準となるべき事項	2021年5月11日、8月9日、11月5日、2022年2月7日に簡易点検実施。記録も保管されている。	遵法
	判断基準第4項	点検記録の保存	2017年分より全て保管されている(電子保管)	
	第41条	第一種特定製品廃棄等実施者の引渡義務	2022年度業務用エアコン2台の入替を実施。2022年6月28日発行の2台分の回収回収フロン破壊証明書を受領、適正に保管されている(破壊処理量：15.7kg)。	
労働安全衛生法	第12条の2	安全衛生推進者等	2018年12月14日、係長 山崎 洋幸が安全衛生推進者養成講習を受講。同日修了。	遵法

企業間の取決めへの対応状況

法令名	チェック結果	遵守状況
企業間の取決め (日本ケミコングリーン調達ガイドライン、ルビコン環境負荷物質一覧表)	<p>禁止物質不使用証明書を全サプライヤーから受領し、日本ケミコン株式会社様、ルビコン株式会社様へ提出済。</p> <p>日本ケミコン株式会社様：グリーンサプライヤー認定更新済(有効期限2025年2月25日)</p> <p>ルビコン株式会社様：最新版の製品の含有に関する不使用保証書(RUB-43)を2023年3月22日に提出済。</p>	遵法

5.PDCAで見る環境関連法規遵守の取組

3) **Do** 実際の取組

① 職場の危険箇所の徹底改善(労働安全衛生法関連)

労働安全衛生について、当社では法規制への取組と位置付けて、安全衛生推進者をリーダーとして、年2回の安全衛生教育の他、職場の危険箇所改善にも徹底的に取り組んでいます。

ここでは、危険箇所改善の実際の事例をご紹介します。

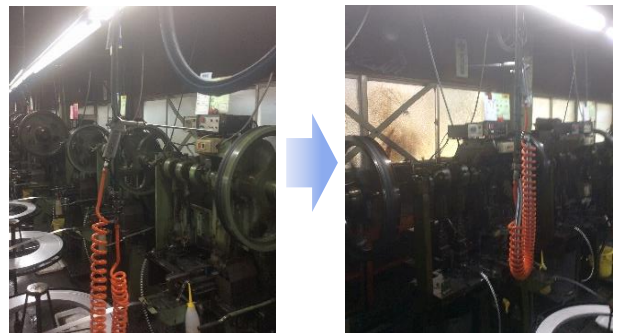
i) 材料パレットに潜む危険を除去(2022年5月)

当社に納入される材料は、左の写真のような荷姿で材料メーカーから入荷します。上部のパレット(左写真丸囲み部)がちょうど顔の位置にあたるため、通行時に当たってしまいけがをする恐れがあるという意見がオペレーターから寄せられました。それを受け、右写真のように改善。作業中のけがのリスクが低減しました。



ii) エアーガンの設置位置の見直し(2023年2月)

各ラインに設置してあるエアーガン。現場の方からエアーガンの先が目に入る危険があると報告を受けて早急な対応をした。労働安全衛生にも関わることなので改善出来て良かった(今回作業を担当した田辺 栄一さんの作業報告より)。現場からの改善依頼を受け即対応。小さなことですが、こうした積み重ねが大切、ですね。



② 環境関連法規遵守のための教育(年6回)

環境関連法規は実に複雑かつ多種多様。しかし知識の習得には相当の時間を要する大変厄介な代物です。

当社ではこんな難敵環境関連法規の知識を従業員レベルに何とか落とし込むべく、2か月に1度のペースで教育を実施。

テスト形式ではありませんがそんなに厳密なものではなく、調べても、相談し合ってもOK!むしろ積極的にそのようなことをして頂くことで、解答者自身の学習の機会や、従業員同士の環境コミュニケーションの一助となればいいなと思い、このような方法を採用しています。

また、外国出身者には同内容の英語版を配布。SDGsを推進している当社らしく「誰一人取り残さない学びの機会」を積極的に提供しています。

1. Review questions (Score : 2 points)

The frequency of simple inspections under the Law Concerning the Control of CFC Emissions is defined as ().

- (1) At least once a month (2) At least once every three months (3) At least once every six months (4) At least once a year

2. In addition to item criteria, there are also quantity criteria for industrial waste, so even if an item falls under an item, a small amount does not have to be disposed of as industrial waste. (1) ○ (2) ×

3. Customer Focused Question (Score: 2 points)

In April 2021, Japan will aim to reduce greenhouse gas emissions by (A) % in FY2030 (compared to FY 2013), and will continue to challenge for a higher level of (B) %.

1. 復習問題(配点:2点)

フロン排出抑制法の簡易点検の頻度は()と定められている。

- ①毎月1回以上 ②3か月に1回以上 ③6か月に1回以上 ④1年に1回以上

2. 産業廃棄物には品目の基準の他に量の基準もあるため、品目で該当しても少量であれば産業廃棄物として処理する必要はない。 ① ○ ② ×

3. 顧客重視問題(配点:2点)

日本は、2021年4月に、2030年度において、温室効果ガス(A)%削減(2013年度比)を目指すこと、さらに(B)%の高みに向けて挑戦を続けることを表明した。

英語版と日本語版の法規制テスト
(2022年8月実施分より)

4) 違反・訴訟の有無

環境法規等の逸脱はありませんでした。

また、過去5年間にわたって、違反や訴訟も1件も発生しておりません。

5) 法規制の遵守状況の評価と次年度以降の取組内容

活動概要	関連SDGs	評価点	寸評、次年度以降の取組内容
法規制改正状況の確認		10点	遵守状況チェックと同時に実施。 次年度も同タイミングで実施予定。 法令の整理について、従来は印刷してファイル管理していたが、今年度より電子ファイルにてPC管理する方法に変更した。
騒音測定	 	10点	2022年度より測定頻度を年4回に変更。規制基準ギリギリ(70db)の箇所があるものの規制値内。 次年度も年4回の測定を継続。
第一種特定製品(業務用エアコン)簡易点検	 	10点	計画通り年4回実施。 次年度も年4回実施。
法規制遵守のための教育	 	10点	計画通り年5回+期末テスト(生物、法規制ミックスにて出題)の計6回実施。 次年度は年6回の実施を計画。
職場の危険箇所、機械類取扱い時注意点等に関するアンケートの実施と改善案の提示	   	5点	グループによって取組に温度差あり。 次年度も同様の取組を計画。 特に製造部(技術)、管理にてこうした取組が積極的に行われるように安全衛生推進者主導で取組を進める。
労働安全衛生教育の実施	   	10点	計画通り年2回実施。 次年度も年2回の実施を計画。

6) 法規制遵守の取組に関する代表者の評価・指示

法規制の遵守状況としては、概ね良好な取組がなされており、安心しました。但し、職場における危険リスクに関しては未だ不十分な評価がなされています。より一層の取組の強化を期待します。

6.PDCAで見る緊急事態の想定とその対応策

1) **Plan** 想定される緊急事態

当社が2022年3月現在想定していた緊急事態は以下の4点です。

- (1) 潤滑油の漏洩
- (2) 地震の発生
- (3) 火災の発生
- (4) 洪水(気候変動適応策も踏まえた活動)

2022年度は、上記想定に基づき、下記3)の通りの訓練を実施しました。

2) **Plan** 環境経営計画とSDGs

NO.	取組内容	SDGs	実施責任者
①	火災、地震避難訓練の事前準備及び実施指揮と事後のフォローを行う。	4 質の高い教育をみんなに、11 気候変動に具体的な対策を	佐々木 勝
②	製造現場の油漏出訓練の事前準備及び実施指揮と事後フォローを行う。	4 質の高い教育をみんなに、6 安全な水とトイレを世界中に、11 気候変動に具体的な対策を	加茂 隆弘
③	洪水を想定した訓練の事前準備及び実施指揮と事後のフォローを行う。	4 質の高い教育をみんなに、8 持続可能な消費を推進する、9 産業と雇用を創出する、11 気候変動に具体的な対策を、13 気候変動に具体的な対策を	有山 浩一郎
④	洪水発生時の被害軽減のための改善箇所を特定し、改善を指示する。	8 持続可能な消費を推進する、9 産業と雇用を創出する、12 つくばないで、消費を減らす、13 気候変動に具体的な対策を	来 満 来 昌伸
⑤	ハザードマップを各階に掲示し、災害危険性、避難場所等の情報を共有する。	4 質の高い教育をみんなに、8 持続可能な消費を推進する、9 産業と雇用を創出する、12 つくばないで、消費を減らす、13 気候変動に具体的な対策を	有山 浩一郎
⑥	火災、地震時の心構えに関する教育を実施する。	4 質の高い教育をみんなに、11 気候変動に具体的な対策を	佐々木 勝
⑦	災害用物資倉庫の管理を行う。	3 持続可能なエネルギーを、6 安全な水とトイレを世界中に、11 気候変動に具体的な対策を	佐々木 勝

3) **Do** 緊急事態の対応及び訓練状況

洪水を想定した訓練(土のう積み訓練)(2022年8月11日実施)

夏休み直前、炎天下の中実施した第2回目の土のう積み訓練。

2回目ということもあり手際は格段に良くなったものの、傷んで砂が漏れた土のうがあることが判明。

劣化した土のう袋があるのが分かっただけでも、訓練した甲斐、十分ありました。

参加者からの感想

- 昨年土のうを追加調達したため、安心感が増したように思う。
- 土のうの補修が必要なものがいくつかあった。
袋の交換等、対策が必要。



地震・火災時避難訓練及び消火訓練(2022年10月24,25日実施(計2回))

コロナ第7波終盤戦の真っ只中ではありましたが、2022年度も2日に分けて(初日:製造部門、2日目:管理部門)の避難訓練及び消火訓練を実施。

「消火器の使い方について改めて気付く点もあった」、「毎年消火器の訓練をしてもらえるから忘れなくて済む」といった終了後に寄せられた従業員の感想から、反復の重要性を再確認させられました。



製造部門(左)と管理部門(右)の訓練の様子

潤滑油の漏洩時訓練(2022年11月25日)

毎年様々な漏洩原因を想定して実施している潤滑油の漏洩時訓練。今回はポンプの配管ホースの破損により潤滑油が漏洩したことを想定し、ホース交換の訓練を実施しました。

手順通りに作業を一通り実施。ポンプを止める、ホースを外すといった2次漏洩に繋がる工程が多数あるため、繰返しの訓練が必要、という意見が多く出されました。



ポンプのスイッチを切り(左)、ホースを交換(右)

4) Check 緊急事態の想定・訓練の評価と次年度以降の取組内容※1

※2NO.	SDGs評価点	寸評、次年度以降の取組内容
①	10点	計画通り実施。一昨年度、昨年度同様通年コロナ警戒もあり全体練習はできず。
②	10点	計画通り実施。 次年度も漏洩箇所を選定の上実地訓練を計画。
③	10点	計画通り実施。 次年度も土のう積み訓練を実施予定。
④	0点	計画のみ(社内理解がいまいち進まず)。 次年度も計画。気候変動適応策への理解を促すことにも併せて尽力す
⑤	10点	製造部門(工作室)管理部門(入口の掲示板)に掲示完了。 掲示はそのまま継続する。
⑥	10点	年2回計画、計画通り実施。 次年度も年2回の実施を計画。
⑦	10点	4月に在庫及び賞味期限の確認を実施。新たな補充は実施せず。 次年度も同様の確認を実施。

※1 次年度は①～⑦に加え、排水ポンプの点検実施を新たな環境経営計画として追加します。

※2 NO.①～⑦は前頁(23頁)の①～⑦に対応しています。

5) Act 緊急事態の想定・訓練に関する代表者の評価・指示

④以外は、大変良い取組を実行していると思います。
④については、かなりのコストがかかる事項ではありますが、早急に検討致します。

7.数字で見る2022年度環境負荷の全体像

1) 過去5年間の環境負荷の実績

項目(単位)		2017	2018	2019	2020	2021
CO ₂ 排出量	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)※1	225,161	9,856	8,585	11,390	9,507
	電力(kWh)	700,395	667,351	513,107	525,194	625,026
	灯油(ℓ)	2,030	1,815	1,488	2,066	1,783
	LPG(kg)	501	483	396	454	483
	ガソリン(ℓ)	2,338	1,435	1,360	1,437	1,559
廃棄物	事業系一般廃棄物(kg)	1,084	18,338	1,058	1,067	3,296
	産廃(廃ウエス)(kg)	1,800	2,000	2,000	1,400	1,600
	紙くず(リサイクル量)(kg)	2,270	2,920	1,930	1,960	2,550
	廃アルミ(有価物)(kg)※2	313,520	311,780	229,080	234,250	279,950
水	上水(m ³)	416	437	374	371	451
化学物質	炭化水素(ℓ)※3	21,600	21,400	14,000	13,000	15,400
	潤滑油(ℓ)※4	34,000	28,000	20,000	22,000	27,000
グリーン調達率(%)		81.49	84.44	74.69	71.98	77.74

2017年度については、平成28年度日本テクノ(株)の調整後排出係数(0.447kg-CO₂、2017年10月まで)とプレミアムグリーンパワーの平成28年度調整後排出係数(0.000kg-CO₂、2017年11月以降)を基に算出しています。

※2 廃アルミ(有価物)は、環境経営目標「不良品の発生削減による材料歩留まりの向上」の評価項目になります。

※3 炭化水素の物品名は「ソルトーフP-1」(第2石油類 非水溶性)になります。

※4 潤滑油の物品名は「ラタックコンパウンド」(第4石油類)になります。

項目毎の基準年度は、2)環境目標の達成状況を御参照下さい。

2) 2022年度の実績と目標達成状況

二酸化炭素排出量に関するもの

項目	単位	基準年度	目標値	実績値	達成状況
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO ₂)	2013年度	137,059	5,203	達成
電力使用量	※1洗浄袋数(調整)原単位(kWh/袋)	2015年度	19.58	17.14	達成
灯油使用量	稼働日原単位(ℓ/稼働日数)	2010年度	5.81	1.88	達成
LPG使用量	稼働日原単位(kg/稼働日数)	2010年度	2.65	1.75	達成
ガソリン使用量	総量(ℓ)	2018年度	1,406.46	1,224.01	達成

廃棄物排出量に関するもの

項目	基準年度	単位	目標値	実績値	達成状況
事業系一般廃棄物	2014年度	総量(kg)	1,668	1,278	達成
産廃(廃ウエス)	2017年度	総量(kg)	1,746	1,200	達成
紙くずリサイクル率	2010年度	※2紙くず(kg)/ゴミ総量(kg)×100	36.64%	44.03%	達成
廃アルミ(有価物)	2010年度	※1洗浄袋数(調整)原単位(kg/袋)	8.54	6.95	達成

水使用量

項目	基準年度	単位	目標値	実績値	達成状況
水	2015年度	稼働時間原単位(m ³ /稼働時間(h))	0.206	0.211	未達

化学物質使用量に関するもの

項目	基準年度	単位	目標値	実績値	達成状況
炭化水素	2017年度	洗浄袋数原単位(ℓ/袋)	0.573	0.55	達成
潤滑油(ラタック)	2010年度	※1洗浄袋数(調整)原単位(ℓ/袋)	0.82	0.67	達成

グリーン調達

項目	基準年度	単位	目標値	実績値	達成状況
グリーン調達	2021年度	グリーン調達率(%)	78.74%	66.27%	未達

※1洗浄袋数(調整)原単位とその算出方法(電力、ラタックの原単位算出に使用)

- 手順1. 当月洗浄袋(ロット)数÷当月製造数=製品1個あたり袋数を計算する -①
 手順2. 調整(1)の値を計算する 調整(1) = ① ÷ (基準年洗浄袋(ロット)数 ÷ 基準年製造数) -②
 手順3. 調整(2)の値を計算する 調整(2) = {1- (②-1)} × 当月使用量 -③
 手順4. 調整後原単位を計算する 調整後原単位 = ③ ÷ 当月製造数

※2ごみ総量(kg)：事業系一般廃棄物(2022年度：1,278kg)、産廃(廃ウエス)(2022年度：1,200kg)、紙くず(2022年度：1,950kg)の合計量となります。

表中赤字の項目は、目標値未達の項目を表します。

3) 2022年度マテリアルバランス

インプット	上:使用(排出)量 下:費用	プロセス	アウトプット	上:処分(売却)量 黒:収入 下:費用 赤:支出
アルミ材料	567,961kg 499,129千円	原材料調達	製品	340,521kg 71,165千円
電力	561,300kWh 17,586千円	製造	アルミスクラップ	227,440kg 63,061千円
灯油	448ℓ 68千円		CO ₂	5,203kg-CO ₂ — 千円
LPG	415.92kg 164千円		事業系一般廃棄物	1,278kg 56千円
ガソリン	1224.01ℓ 203千円		産廃(廃ウエス)	1,200kg 79千円
炭化水素	15,800ℓ 5,342円		産廃(水銀使用製品産業廃棄物)	14kg 16千円
潤滑油	22,000ℓ 8,630千円		紙くず	1,950kg 0.00千円
上水	409m ³ 86千円		排水(浄化槽維持費用)	409m ³ 48千円
			販売	樹脂パレット・樹脂製廃通函

8.PDCAで見る2022年度環境活動

二酸化炭素排出量（目標値：総量（kg-CO₂）

Plan 中長期環境経営目標

（単位：kg-CO₂）

年度	目標値	基準年度比
2022	137,059	58.0%削減
2023	120,742	63.0%削減
2024	104,425	68.0%削減
2025	88,108	73.0%削減
2026	71,792	78.0%削減
2030	16,317	95.0%削減
2035	カーボンニュートラル	

基準年度	2013年度
※基準年度実績	326,337kg-CO ₂

※CO₂排出量の基準年度と長期目標設定について

2015年12月「パリ協定」の採択を受け、当社ではこの目標になぞらえる形で長期目標のゴールを2030年度とし、国の削減目標よりも遥かにチャレンジングな「50%削減」を目指す目標を2017年に策定、取組を進めてきました。

しかし、昨今の脱炭素化の動向から目標の積み増しの必要性を痛感。2022年4月「2030年度に2013年度比95.0%削減、2035年カーボンニュートラル」というよりチャレンジングな目標を新たに策定しました。

中長期環境経営目標達成のために

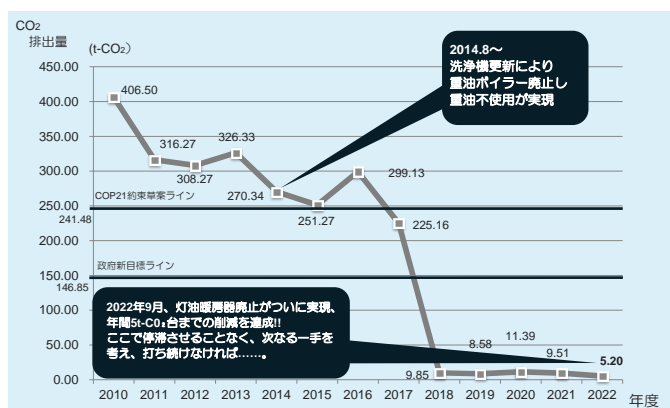
2022年度スタート時点で弊社に残っている二酸化炭素排出源は、灯油暖房器(灯油)、ガス給湯器、フォークリフト燃料、金型焼入れ用バーナー(LPG)自動車燃料(ガソリン)で、年間排出量にして約10t-CO₂ほど。これだけを示すと「ずいぶん少ないな……」と驚かれることも多いですが、現在残っているこれらの排出源は長く我々の日常生活や生産活動と密接にかかわり続けてきたものばかり。それゆえ使用をやめる、他のものに変えるなどという発想がなかなか出てこないところが厄介です。電力などの先に削減に成功した分が元に戻ってしまうリスクについても、ケアし続ける必要もあるでしょう。

カーボンニュートラル早期達成のためには、当たり前前の打破と、従業員のモチベーション向上に向けた施策を打ち続けることが必要と考えます。

以降のページで、2022年度に実際に行った施策にも触れていきますので、是非楽しみに読み進めて頂ければと思います。

Do 実施 弊社における二酸化炭素の具体的な排出源は、エネルギー(電力、灯油、LPG、ガソリンの4項目)使用に伴うものとなります。それぞれの具体的な取組・結果及び分析については、後の頁にて詳述しますので、御確認下さい。

Check 確認 二酸化炭素排出量の推移と2022年度の実績



2022年9月、遂に灯油暖房器廃止。遂に年間5t-CO₂台を手中に収めるに至りました。

カーボンニュートラルまで残り5t。この達成を阻むのは長く根付いた習慣の壁、設備投資の壁、技術革新の壁……。侮るなかれ敵は強敵です。

2022年度はこうした壁をぶち破るための一助となればとの思いで『脱炭素チャレンジカップ2023』に挑戦。当社の奮闘ぶりは33、56頁のトピックにて御紹介。是非そちらも併せてご覧ください。

Act 見直し 二酸化炭素排出量削減に関する代表者の評価・指示

大変素晴らしい成果を達成し、大変満足しております。また、「脱炭素チャレンジカップ」グランプリ、素晴らしいの一言です。



レポートを読み解くためのキーワード

当社独自の評価基準「SDGs評価点」とは？

SDGsで環境経営を総点検

当社環境経営レポートでは、2018年版より、「取組状況の確認及び評価(Check)」の手法として「SDGs評価点」なるものを採用しています。

これは、SDGsの観点から当社の環境経営に関する取組状況を点数化することと、当社の取組がSDGsをどれだけ満たすものとなっているのか、数値的に可視化することを狙い、設定したものです。

年間の環境活動の状況をいざ評価しようにも、数字で表せる使用(排出)量ならまだしも、教育・訓練や削減に繋がる活動の実施状況などについては、評価が難しいというのが、従来の悩みでした。

そこで、環境経営計画策定時に全ての計画をSDGsと紐付けし、年度終了時に独自基準に基づきすべての計画を点数化。そうすることで、今までどうしても表現が難しかった数字に表せない活動の取組状況を数字で表現したり、年度毎の比較をすることまで可能となりました。また、SDGsに紐付けした結果をグラフ化することで、現在の活動がSDGsをどれだけ満足する活動となっているのか、欠けている部分はどこなのかというところまで、「見える化」できてしまう。いいことづくめの評価方法ではないののかな?と考案者として自画自賛している次第です。

このようにいいことづくめ(?)の「SDGs評価点」。これが今後世の中に広まるかどうかはひとまず置いておいて、その評価基準は、次の通りです。

「SDGs評価点」評価基準

環境関連法規(17~20頁)

10点満点。遵守事項各項目につき遵守されていないものがあつた場合、1項目ごとに△1点。

また、毎月確認が必要な項目については、年間完全達成で満点、達成できない月があれば1点減点とする。

緊急事態の想定とその対応策(21、22頁)

10点満点。2020年度年初に予定した訓練3項目(避難訓練、油漏出訓練、八潮市消火訓練)について、実施した場合は10点、未実施の場合は理由の如何を問わず0点とする。

項目毎の取組(数値目標)(27~41頁)

目標達成率を点数とする(但し、100%以上10点(満点)、小数点以下切捨て)。

項目毎の取組(教育訓練)(17~52頁)

各教育訓練項目それぞれ10点満点。実施回数にて採点し、計画通り実施の場合は満点(10点)、未実施の場合は、未実施1回毎の減点=10÷実施予定回数(小数点以下切上げ)に基づき減点する。

項目毎の取組(数値以外の目標)(27~52頁)

実施の場合は満点(10点)、未実施の場合は理由の如何を問わず0点とする。

補足

1つの環境活動計画につき2つ以上のSDGsが並存しているものについては、どちらも同じ点数であるものとして評価する。

当社環境経営の気になる最新情報は
「来ハトメ環境・CSRチャンネル」で
今すぐチェック!!



Youtube「来ハトメ工業環境・CSRチャンネル」QRコード

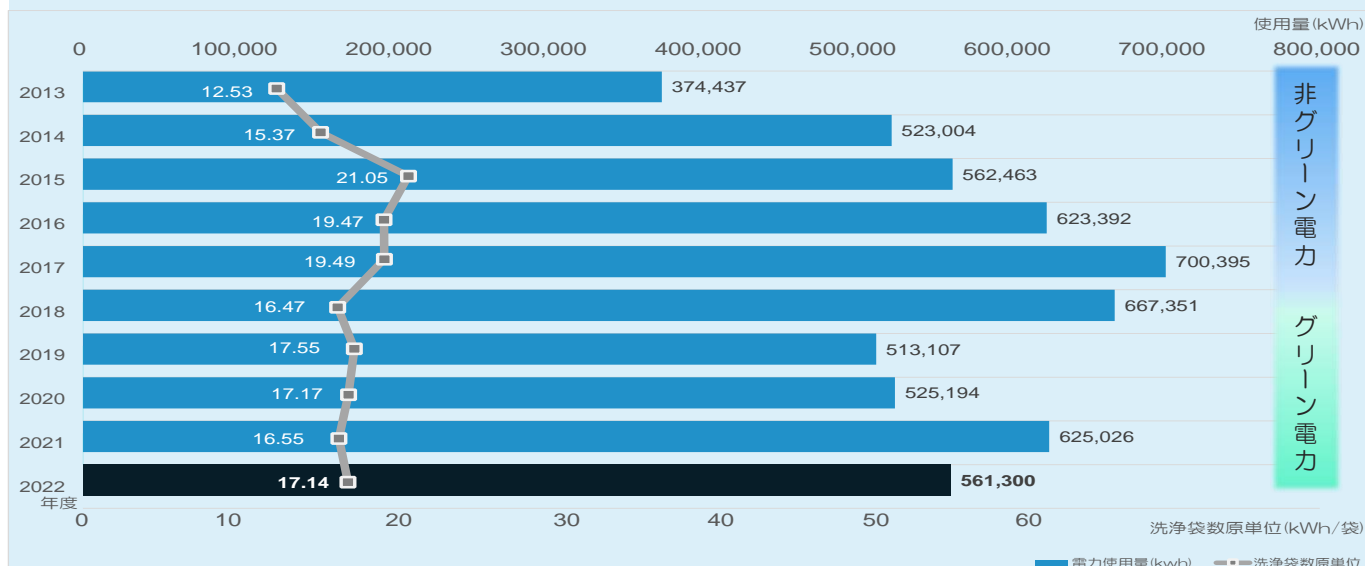
8.PDCAで見る2022年度環境活動

電力使用量(目標値：洗浄袋数(調整)原単位(kWh/袋))

Plan 計画 Do 実施 Check 確認 中期環境経営目標・2022年度環境経営計画及び実施状況

基準年度	2015	中期環境経営目標					
	年度	2022	2023	2024	2025	2026	
基準年度	21.05	目標値	19.58	19.37	19.16	18.95	18.73
実績	kWh/調整袋	基準年度比	7%削減	8%削減	9%削減	10%削減	11%削減

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
使用量記録・月毎の見直し (田辺 栄一)	12 持続可能な消費と生産、13 気候変動に具体的な対策を	10点	原単位目標達成率114.19%(目標達成)。次年度は基準年△8%を目標とする。
電力関連の教育実施 (田辺 栄一)	4 質の高い教育をみんなに、13 気候変動に具体的な対策を	10点	計画3回、実施3回(計画通り)。次年度も年3回の実施を計画。
設備の情報収集・提案等 (田辺 栄一)	7 持続可能なエネルギー、12 持続可能な消費と生産、13 気候変動に具体的な対策を	10点	環境省事業、展示会により実施。次年度も継続。
デマンド管理(290kW) (田辺 栄一)	13 気候変動に具体的な対策を	10点	277kW(目標達成だが昨年比△12kW)。次年度目標値290kW。
電力事業者比較・検討 (田辺 栄一)	8 質の高いエネルギー供給、12 持続可能な消費と生産、13 気候変動に具体的な対策を	10点	年初に確認、見積辞退相次ぎ比較にならず。次年度は当目標定めず、しばらくは静観。
デマンド抑制策検討及び実 (来 満)	13 気候変動に具体的な対策を	10点	デマンドコントローラーを参考に生産調整。次年度も継続実施する。
温・湿度の記録 (田辺 栄一・斉藤 進・安田・ジョセフィーナ)	13 気候変動に具体的な対策を	10点	全エリア毎日記録。次年度も継続実施。



使用量は約10%減少しましたが、暖房器を灯油式からエアコンに更新した影響で原単位が3%ほど増加しました。従来夏が最大だったデマンドも今年度は冬(12月)に更新。冬場の管理方法を探ることが次年度の重要テーマです。次年度は上記目標に加え、2011年設置の工場照明(LED)の更新に関する調査・提案を実施します。

原単位算出式：※基準年度の洗浄袋数を基に調整した電力使用量(kWh)÷洗浄袋数(袋)
※原単位計算方法については26頁「※1洗浄袋数(調整)原単位とその算出方法」をご覧ください。

Act 見直し 電力使用量削減に関する代表者の評価・指示

2022年度は前年度に比較して11.4%の減少であり、大変良好な結果だと思います。今後も継続して電力使用量削減に取り組んでまいりましょう。

その他のエネルギー使用量(目標値：各グラフ上部に記載)

Plan Do Check 中期環境経営目標・2022年度環境経営計画及び実施状況

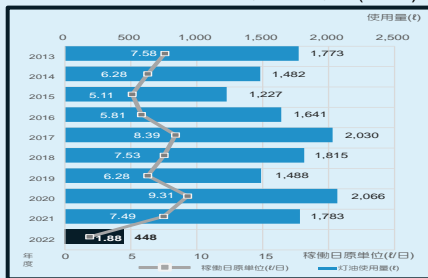
灯油	基準年度	2010	中期環境経営目標				
	年度	年度	2022	2023	2024	2025	2026
	基準年度	6.18	目標値	5.81	2022年9月灯油暖房器廃止完了につき以降の環境経営目標の策定はなし		
実績	ℓ/日	基準年度比	6%削減				
取組概要(担当者)		SDGs		評価点	寸評・次年度の取組		
使用量記録・月毎の見直し (三輪 千鶴)				10点	原単位目標達成率308.44%(3,4月のみ使用)廃止につき次年度の目標はなし。		
フィルター、熱交換器清掃 電化未実施の場合に限る(石原 隆雅)				—	2022年9月に灯油暖房器廃止のため実施なし。		
灯油暖房器の廃止、電化の検討 (来 昌伸、有山 浩一郎)				10点	計画通り実施。更新完了したためこれにて終了。		

LPG	基準年度	2010	中期環境経営目標				
	年度	年度	2022	2023	2024	2025	2026
	基準年度	3.01	目標値	2.65	2.62	2.59	2.56
実績	kg/日	基準年度比	12%削減	13%削減	14%削減	15%削減	16%削減
取組概要(担当者)		SDGs		評価点	寸評・次年度の取組		
使用量記録・月毎の見直し (グエン ヴァン トゥアン)				10点	原単位目標達成率151.67% 次年度は基準年度Δ13%を目標とする。		
夏(冬)期の使用ルール啓発・実行 (グエン ヴァン トゥアン)				10点	計画通り実施。 来年も継続。		
湯沸器の電化検討 (来 昌伸、有山 浩一郎)				0点	計画するも実行できず。 来年も電化を提案(フォークリフト)。		

ガソリン	基準年度	2018	中期環境経営目標				
	年度	年度	2022	2023	2024	2025	2026
	基準年度	117.2	目標値	1,406.46	現状把握	2023年度の結果により目標を策定	
実績	ℓ/月	基準年度比	2%削減	-			
取組概要(担当者)		SDGs		評価点	寸評・次年度の取組		
使用量記録・月毎の見直し (来 尊重)				10点	原単位目標達成率114.91% 社用車台数減につき次年度は現状把握とする。		
エコドライブ教育の実施 (来 尊重)				10点	計画4回、実施4回(計画通り実施)。 次年度も4回/年の実施を計画。		

灯油使用量

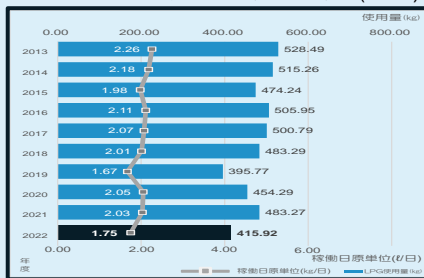
目標値：稼働日原単位(ℓ/日)



9月に灯油暖房器を廃止したことで、後半の使用がなかったことから昨年比74.8%の大幅削減。CO₂の半分を占める部分を無くすることができました。

LPG使用量

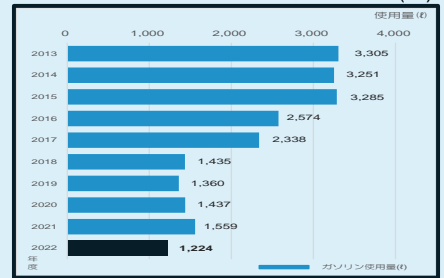
目標値：稼働日原単位(ℓ/日)



使用量約14%削減。次の使用量削減のターゲット。機器更新の提案を続ける必要があります。

ガソリン使用量

目標値：総量(ℓ)



9月に社用車1台を廃止したこともあり、使用量約21%削減に成功。

Act 見直し その他のエネルギー使用量削減に関する代表者の評価・指示

どの項目においても使用量削減に努力されていると思われます。今後の省エネの方策をみんなで考えていきましょう。

8.PDCAで見る2022年度環境活動

来ハトメ環境トピックス2022

② 「疑心」が「自信」に変わった日

～『脱炭素チャレンジカップ2023』挑戦記(1)～

当社の脱炭素への取組の「疑心」

406.5t。2010年度に環境への取組をスタートさせた頃の弊社は、年間これだけの量の二酸化炭素を吐き出す会社でした。あれから13年の時を経た当社の二酸化炭素排出量はと言うと5.20t。率にして98.7%というと驚かれるかも知れませんが、何しろ二酸化炭素は目には見えないもの。それだけに、どんなに色々考えて様々な策を打ち、数字で表れた結果がどんなに下がったとしても「この取組、本当に正しいのだろうか？」と思うことなんて日常茶飯事。言ってみれば疑心の連続です。

疑心を晴らすためには、誰かの、とりわけこの道に詳しい専門家の意見を聞いてみるのが一番。とはいっても、我々のような零細企業の取組をその道の権威に確かめることができる機会なんてあるものではありません。疑心の脱却のために、第三者の確かな評価が知りたい……。そんな矢先、会社に届いた1通のダイレクトメールが私の目に留まったのです。

『脱炭素チャレンジカップ2023』

ここ数年、秋頃毎年届いている『脱炭素チャレンジカップ』の募集要項。いつもの年であれば軽く目を通し「こうしたものに応募してみるのもいいかも……」と思いつつも、いざ応募となると二の足を踏む、という感じでしたが、今回はいつもの年とは状況が違う。とにかく当社が今まで進んできた脱炭素化への歩みが確かなものなのか、どんな形でもいいから誰かに聞いて確かめたい。そんな思いで上司に挑戦表明。許可を取り付け、いざ挑戦。早速表彰制度の予選とも言うべき応募用紙への記入へと取り掛かることとなりました。

ここで本題に入る前に、簡単に今回挑戦を決意するに至った「脱炭素チャレンジカップ」の簡単な概要とその歴史を御紹介しておきましょう。

「脱炭素チャレンジカップ」(旧低炭素杯)は、学校・団体・企業・自治体などの多様な主体が展開している脱炭素を目的とした地球温暖化防止に関する地域活動について、書類審査、プレゼンテーション審査を行い、優れた取り組みを表彰している全国大会です(『脱炭素チャレンジカップ 公式ホームページ』より)。そのルーツを2011年スタートの低炭素杯に持ち、今回を含め計13回の開催を数える言わば脱炭素界のスーパーイベント。当然毎回全国から「我こそは……」という猛者が集まるわけで、そこで一定の評価、ましてや賞を得るともなると大変な難関であることは言うまでもありません。今回はあえて、そこに踏み込むことを決意したのです。

予選～書類作成から応募まで～

環境各賞への応募は書類作成に始まる、と言うのが通り相場。脱炭素チャレンジカップにおいても、そこは他の表彰制度と全く同様。まずは一次審査として「作文」の課題が待ち受けていました。

200字制限の団体概要と350字制限の取組概要に始まり、脱炭素化、持続性、波及性、創造性、協働の5つの課題が用意され、団体概要、取組概要を含めた総文字数は実に2,250文字。これを応募フォームの所定欄に記入することが応募の第一条件。当然、それができなければこの時点で失格ということになってしまう……。

貴重な他者の評価を聞ける機会、せめて応募まではこぎつきたい。その一心で申込書という名の課題作文を何とか完了させました。時間にして応募を決意してから約1週間。後から見返してみると「よくこんなことができたな……」と思いますが、それはその時の必死さゆえ、言わば「火事場のクソ力」的なものがそうさせたのでしょね……。

ここで、もしこれからこの『脱炭素チャレンジカップ』に挑戦しようとする方への耳寄り情報を一つ。『脱炭素チャレンジカップ』の応募フォームは文字数を自動カウントしてくれるので、字数制限の管理は簡単かも知れませんが……。作文が比較的簡単(それでも2,250文字ですが……)なのも嬉しいところ。とある賞では字数制限2,000字という驚愕の作文を課されることを考えると、これでも応募のハードルはかなり低く設定されているのではないかと、というのが個人的な感想です。

予選通過～謎のファイナリストへ～

かくして10月4日、無事応募完了。10月10日の締切に何とか間に合わせ、これで一安心。あとはひたすら結果を待つことになるわけですが、これがまた長い……。どのくらい長いかと言えば、少なくとも見積もって応募したのを忘れるくらい、と言えれば分かりやすいでしょうか。選考結果の返信が来たのは12月1日、それは唐突とも言うべき1通のメールによるものでした。

受信したメールには、選考結果の通知と「ファイナリストマニュアル」と称した文書が2通添付されたもの。メールの本文には選考結果については一言も触られていませんでした。

まず受け取ったメールの添付ファイルの内の1つ「選考結果通知」というものを開封。するとそこには以下の文言が付されているではありませんか。

「貴団体は、厳正なる選考の結果、全国各地で脱

炭素社会の構築につながる取組を展開している多くの団体の中から、脱炭素チャレンジカップ2023への出場団体（ファイナリスト）として決定されました。」

この通知を目の当たりにし、もちろん嬉しさというのもどこかではあったのかと思いますが、やはり「第三者の目でご覧頂いても、今までの当社の脱炭素化に向けた歩みは確かなものだった」ということを確認できたことで一安心、というのが一番大きかったと思います。

『脱炭素チャレンジカップ2023』における一番の目的である「当社取組の第三者からの評価」については、ひとまずこれで達成できた訳ですが、そんな思いも束の間、選考結果の通知メールにもう一つ添付されていた「ファイナリストマニュアル」なる文書を一読。その後一気に青ざめることとなるのです。

ファイナリストに課された「2つの宿題」

「ファイナリストマニュアル」。表紙に脱炭素チャレンジカップのマスコットキャラクターのクリームくん（シロクマの男の子）とゆきまるくん（ユキヒョウの男の子）が描かれた16頁にわたる冊子には2023年2月16日の脱炭素チャレンジカップ本戦の進行に関する内容などが詳細に書かれていました。この冊子を熟読する中で、ファイナリストに課される「2つの宿題」の存在を知り、愕然とするのでした。その「2つの宿題」とは

●3分のプレゼン動画を期限内に提出すること。

●2月16日の本戦で課される1分間プレゼンの準備をしておくこと。

というもの……。

冊子を閉じると、表紙の向こうにはこちらを向いて手を上げるクリームくんの姿が……。この時ばかりは、この表紙のクリームくんが、こちらに襲いかかってくる白熊の絵に見えたことは、言うまでもありません。

しかし、せっかく得られたファイナリストの権利。無駄にしたくないのなら課された課題を形にするしかない。そうと決まったらまず行動！ということで、動画撮影日の段取りを組み、年末年始で編集作業、年明け早々にナレーションを入れて完成という大雑把なプランを組み、早速取り掛かることに。余談ですが、動画の中で使用した八潮市全景は会社近くの中川に架かる新中川橋のてっぺんから2年前に撮影したものを、そして八潮市と都心を結ぶつくばエクスプレスの車両が八潮駅に入線する様子は、12月に審査の用で神戸に行かせて頂いた際に乗り込んだ電車を撮影したものを使用。こうして「総製作費2,000円動画制作プロジェクト」は、幕を開けたのです。

動画制作にあたり、もう一つ重要な要素となるのがナレーション。これについてはパート従業員の岡本さんを推薦。玉砕覚悟でお願いしたところ、了承の取り付けに成功！お願いしたのが正月休み直前のタイミングでしたが、正月休み中に原稿読みの練習までして下さったとか。お陰で正月気分もまだ明けきらぬ1月6日に行ったアフレコ当ても無事終了。岡本さんの最大限の協力のお陰で、締切1週間前に動画の完成にこぎつけることができましたのです。

動画を事務局に送って無事終了、と思いきや、すぐに事務局から簡単なダメ出しが……。それも無事クリア、と思いきや、一難去ってまた一難、今度は1月24日に接続テスト兼リハーサルを実施すること。あいにくその日は審査の用でお休みを頂いていたこともあり、宮本主任に代役をお願いすることに。こちらも御快諾頂き、その大役も無事務めて頂きました。このように従業員の皆さんから協力を頂きながら、本番への備えを進めていったのです。

残るは当日のアピールタイムという名の1分間プレゼンのみ。これだけ色々な方の力を借りここまで来れたのだから、最後ばかりは言い出しっぺの自分が何とかする！と意気込んで練習をスタートさせたものの、この1分間プレゼン、いざやってみるとそれが思いの外難しい……。無駄な部分をそぎ落としては読み、そぎ落としては読みをくり返し、何とか無事1分丁度で読み切れる原稿が完成。次はひたすら音読して暗記する作業。しかし、こんなこと会社でも家でも、ちょっと恥ずかしくてできない……。仕方なく「通勤中の車内」を練習場として、1週間みっちりトレーニングすることを決意。どんなに練習しても噛んだり、時間オーバーしたりとなかなか上手くいかず、結局独り言を繰り返すこと実に100回以上。1分間という制約の前に思わぬ苦戦を強いられることになってしまうのでした。



「脱炭素チャレンジカップ2023」会場の様子

8.PDCAで見る2022年度環境活動

廃棄物排出量(目標値：各グラフ上部に記載)

Plan Do Check 中期環境経営目標・2022年度環境経営計画及び実施状況

事業系	一般廃棄物	基準年度	2014	中期環境経営目標					
		年度	年度	2022	2023	2024	2025	2025	
		基準年度	1,795	目標値	1,669	1,651	1,633	1,616	1,598
		実績	kg	基準年度比	7%削減	8%削減	9%削減	10%削減	11%削減
		取組概要(担当者)		SDGs	評価点	寸評・次年度の取組			
		排出量記録・月毎の見直し (加茂 隆弘)			10点	目標達成率130.52% 次年度目標は基準年△8%			
		ウエスリユース(モップとして) (加茂 隆弘)			10点	毎月徹底して実施。 次年度も継続。			
		分別不徹底事例の注意喚起 (加茂 隆弘)			5点	計画年2回、実施年1回。 次年度は有価物置場看板設置を計画。			
		廃棄物に関する教育(年2回) (加茂 隆弘)			10点	計画通り実施。 次年度も年2回の実施を計画。			
産廃	(廃ウエス)	基準年度	2017	中期環境経営目標					
		年度	年度	2022	2023	2024	2025	2025	
		基準年度	1,800	目標値	1,746	1,728	1,710	1,692	1,674
		実績	kg/日	基準年度比	3%削減	4%削減	5%削減	6%削減	7%削減
		取組概要(担当者)		SDGs	評価点	寸評・次年度の取組			
		排出量記録・月毎の見直し (井出 学)			10点	総量目標達成率145.5% 次年度は基準年△4%を目標とする。			
		「見える化」ボード定期更新 及び朝礼における啓発 (井出 学)			10点	適宜確実に実施。 次年度も継続。			
		プレス機からの油の飛散に ついての分析と改善の実施 (田辺 栄一)			10点	右写真(丸囲み部)のような飛散 対策を実施。効果があるため次 年度も継続。 			
		分別の確認及び注意喚起 (井出 学)			10点	計画通り実施。 次年度も継続。			
紙くず	(有価物)	基準年度	2010	中期環境経営目標					
		年度	年度	2022	2023	2024	2025	2026	
		基準年度	25.64	目標値	36.64	37.64	38.64	39.64	40.64
		実績	%	基準年度比	11%削減	12%削減	13%削減	14%削減	15%削減
		取組概要(担当者)		SDGs	評価点	寸評・次年度の取組			
		リサイクル量記録・見直し (有山 浩一郎、ホアン・パン・フク)			10点	リサイクル率44.03%(目標達成) 次年度目標更に1%向上			
		紙類の分別の徹底 (全従業員)			10点	全従業員で徹底して実施。 次年度も継続。			
		大量コピー時テスト印刷をす などミスコピー撲滅に努める (全従業員)			10点	全従業員で徹底して実施。 次年度も継続。			

※紙くずリサイクル率は以下の式で計算します。

※廃アルミの原単位は調整原単位を使用します。

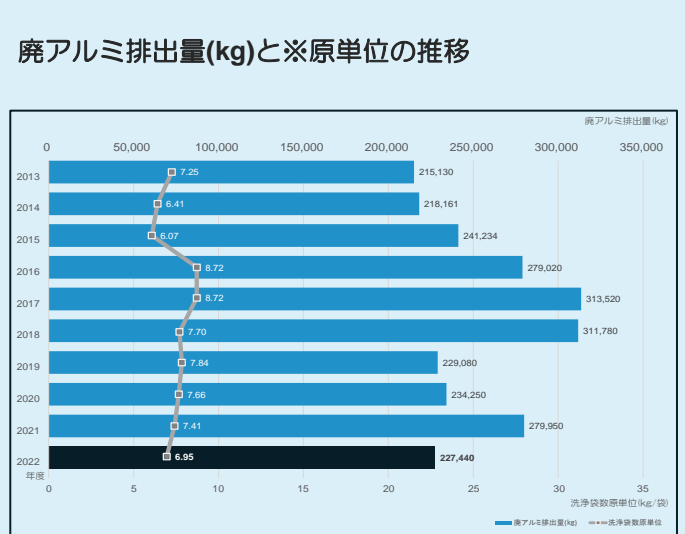
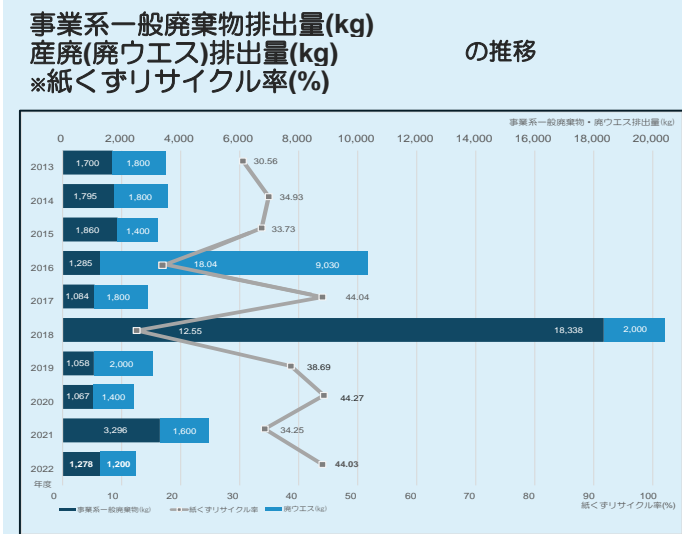
原単位算出式：基準年度の洗浄袋数を基に調整した排出量(kg)÷洗浄袋数(袋)
原単位計算方法については28頁「※1洗浄袋数(調整)原単位とその算出方法」
をご覧ください。

$$\text{紙くずリサイクル率}(\%) = \frac{\text{ごみ総量}(\text{kg}) - \left(\frac{\text{事業系}(\text{kg}) + \text{産廃}(\text{kg}) + \text{紙くず}(\text{kg})}{\text{紙くず}(\text{kg})} \right)}{\text{ごみ総量}(\text{kg})} \times 100$$

基準年度	中期環境経営目標						
	2010	2022	2023	2024	2025	2026	
	9.71	8.54	8.45	8.35	8.25	8.16	
実績	0/調整袋	基準年度比	12%削減	13%削減	14%削減	15%削減	16%削減

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
排出量記録・月毎の見直し (加藤 直)	12	10点	調整原単位目標達成率122.96% 次年度目標は更に△1%削減。
廃アルミ価格の調査 (加藤 直)	4, 8, 9	10点	計画通り実施。 次年度も継続。
製品L寸法確認の徹底 (プレスオペレーター)	9, 12	6点	確認不備4件/年(前年度8件/年)。 次年度目標0件。
材料台管理(グリース交換) (加藤 直)	9, 12	10点	計画通り実施。 次年度も継続

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
廃アルミ価格の「見える化」 (加藤 直)	4, 12	10点	計画通り実施し毎週掲示。 次年度も継続。
缶開けルールの啓発 (加藤 直)	4, 9	10点	計画通り実施。 次年度も継続。
材料つなぎ教育の(年12回) (井出 学)	4, 9	10点	計画通り実施。 次年度12回の実施を計画。
つなぎ教育効果測定テスト実施 (井出 学)	9	10点	計画通り実施。 次年度も継続。
不良率の「見える化」 (井出 学)	9	10点	計画通り実施。 次年度も継続。



廃棄物排出量削減に関する代表者の評価・指示

廃棄物排出量については、事業系、産廃(廃ウエス)共に2021年に対し2022年はかなり削減に成功したと思います。ウエスに関する社員教育も常時続行致します。

8.PDCAで見る2022年度環境活動

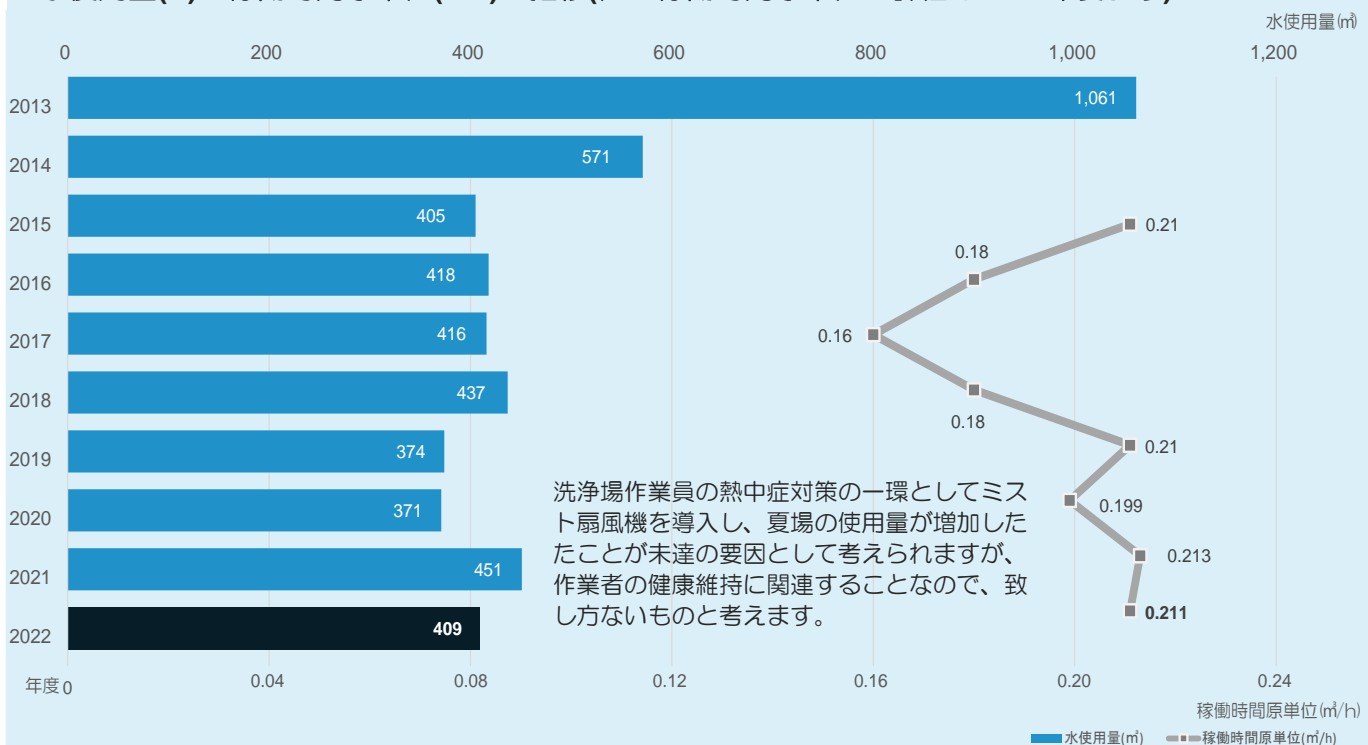
水使用量(目標値：月稼働時間原単位(m³/h))

Plan 計画 Do 実施 Check 確認 中期環境経営目標・2022年度環境経営計画及び実施状況

基準年度	中期環境経営目標						
	2015年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
基準年度	0.215	目標値	0.206	0.204	0.202	0.200	0.198
実績	m³/h	基準年度比	4%削減	5%削減	6%削減	7%削減	8%削減

取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
使用量記録・月毎の見直し (宮本 哲次)	6	9点	原単位目標達成率97.90%。 未達につき次年度は目標据置。
節水のための啓発教育実施 (宮本 哲次)	4, 6	10点	計画2回、実施2回(計画通り)。 次年度も年2回の実施を計画。
雨水有効活用(浄化槽汲取り用に) (宮本 哲次)	6	10点	計画通り実施(但し一部不徹底)。 次年度も継続。
水道メータの監視・速報値掲示 (宮本 哲次)	6	10点	計画通り実施。 次年度も継続。
蛇口点検(問題あれば補修) (宮本 哲次)	6	10点	計画通り実施。 次年度も継続。
洗濯・トイレでの節水方法研究 (宮本 哲次)	6, 12	0点	計画倒れで実施できず。 次年度は自動水栓導入を検討。
節水ポスターの更新 (宮本 哲次)	6	10点	計画通り実施。 次年度も継続。

水使用量(m³)と稼働時間原単位(m³/h)の推移(但し稼働時間原単位の評価は2015年度より)



Act 見直し 水使用量削減に関する代表者の評価・指示

水使用量削減については大変難しい課題だと認識しています。特にコロナ時においては、手洗い、うがいと水を使用する機会が多くなり、目標の達成は大変かと思えます。知恵を出し合い、がんばろう！

化学物質使用量(目標値：各グラフ上部に記載)

Plan 計画 Do 実施 Check 確認

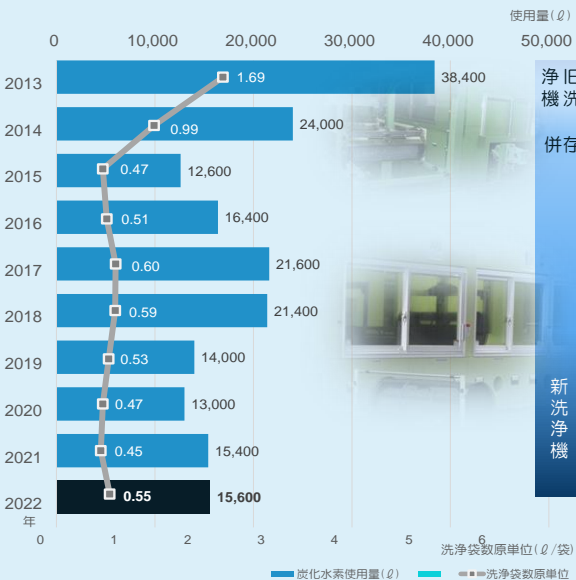
中期環境経営目標・2022年度環境経営計画及び実施状況

炭化水素	基準年度	2017	中期環境経営目標					
	年度	年度	2022	2023	2024	2025	2026	
	基準年度	0.603	目標値	0.573	0.567	0.561	0.555	0.549
	実績	ℓ/袋	基準年度比	5%削減	6%削減	7%削減	8%削減	9%削減
取組概要(担当者)		SDGs	評価点	寸評・次年度の取組				
使用量記録・月毎の見直し (来 淳一郎)			10点	目標達成率104.33%。 次年度は基準年△6%を目標とする。				
洗浄機の始業点検及び定期メンテナンス実施 (来 淳一郎、来 博行)			10点	どちらも計画通り実施。 次年度も継続。				

潤滑油	基準年度	2010	中期環境経営目標					
	年度	年度	2022	2023	2024	2025	2026	
	基準年度	0.93	目標値	0.82	0.82	0.81	0.80	0.79
	実績	ℓ/調整袋	基準年度比	11%削減	12%削減	13%削減	14%削減	15%削減
取組概要(担当者)		SDGs	評価点	寸評・次年度の取組				
使用量記録・月毎の見直し (来 淳一郎)			10点	総量目標達成率122.66% 次年度は基準年△12%を目標とする。				
オイルクリーニング装置調査 (来 淳一郎)			0点	現実的でなく検討を断念。次年度は新油の追加抑制策の検討及び実施に取組む。				

炭化水素使用量(ℓ)と※原単位の推移

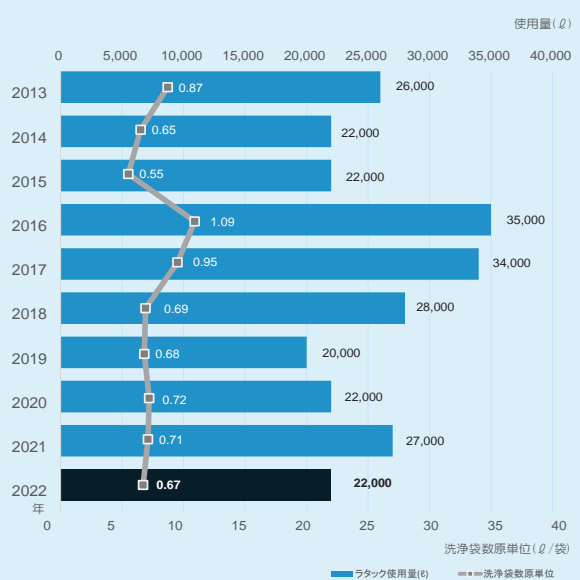
目標値：洗浄袋数(調整なし)原単位(ℓ/袋)



生産量が19%減少したものの使用量は逆に1.2%増加。これは、年度末に実施した炭化水素調達先変更在先立ち、新旧炭化水素を多目に発注した影響であり、使用による問題ではないものと考えます。

潤滑油使用量(ℓ)と※原単位の推移

目標値：調整洗浄袋数原単位(ℓ/袋)



※潤滑油の原単位は調整原単位を使用します。

原単位算出式：基準年度の洗浄袋数を基に調整した排出量(kg)÷洗浄袋数(袋)
原単位計算方法については26頁「※1洗浄袋数(調整)原単位とその算出方法」をご覧ください。

Act 見直し

化学物質(炭化水素、潤滑油)使用量削減に関する代表者の評価・指示

化学物質については、当社の製品生産量に比例するものだと思います。5月までは生産量低迷していましたが、6月からは2割ほど増加することが予想されるため、使用量削減は難しいと思います。

8.PDCAで見る2022年度環境活動

グリーン調達(目標値:グリーン調達率(%))

Plan 計画 Do 実施 Check 確認

中期環境経営目標・2022年度環境経営計画及び実施状況

基準年度	中期環境経営目標					
	年度	2022	2023	2024	2025	2026
基準年度	目標値	78.74%	79.74%	80.74%	81.74%	82.74%
実績	% 基準年度比	-	1%向上	2%向上	3%向上	4%向上

取組概要(担当者)

SDGs

評価点

寸評・次年度の取組

グリーン購入率の記録・見直し

(福田 則子)



6点

グリーン購入率66.27%。
是正処置を実施。調達基準を変更し次年度再度現状把握とする。

物品購入時、カタログにより選別し優先購入

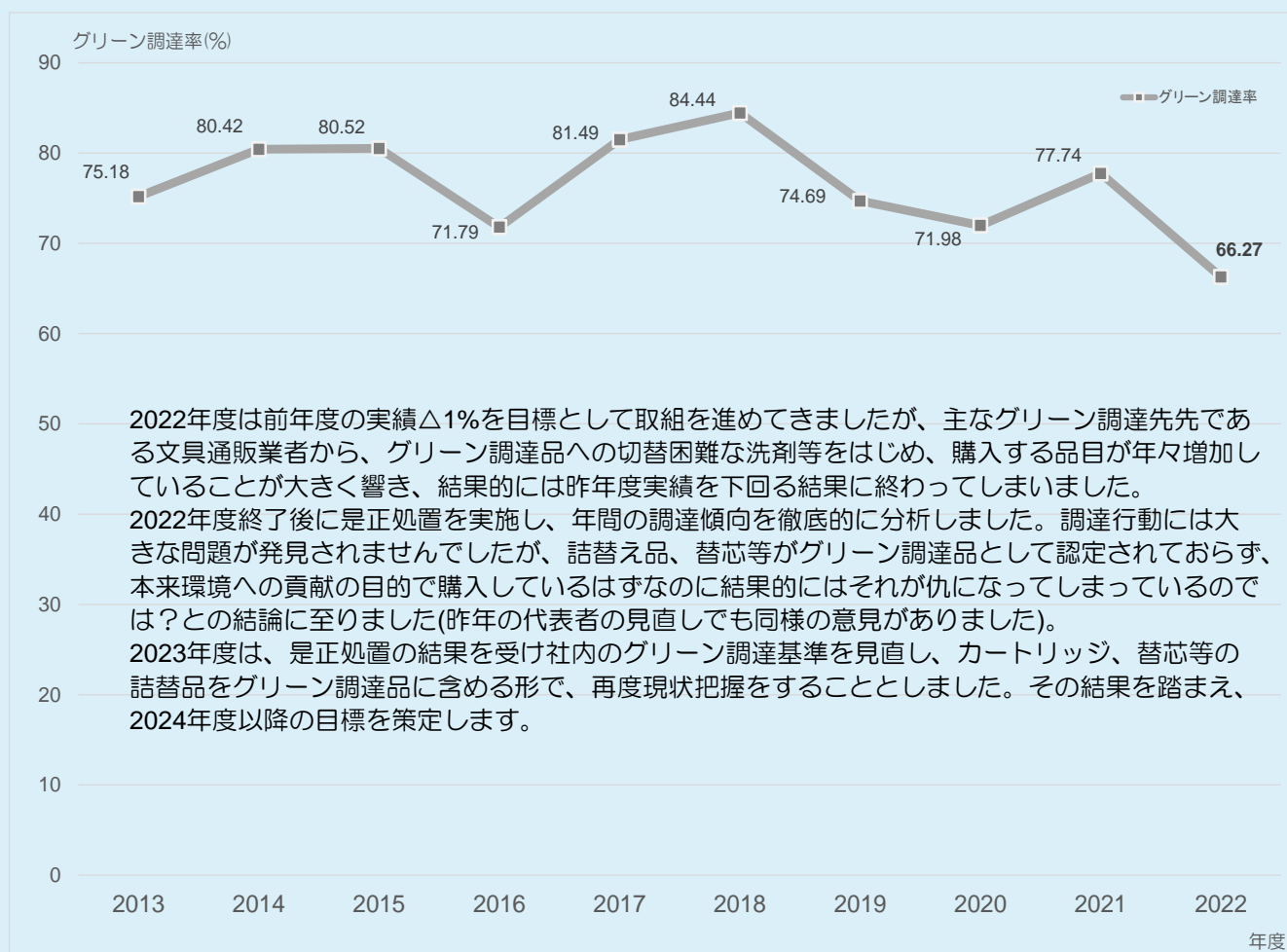
(福田 則子)



10点

計画通り購入の都度実施。
次年度も継続。

グリーン調達率(%)の推移



Act 見直し

グリーン調達に関する代表者の評価・指示

グリーン調達に関しては、取引先の考え方や、その会社の状況がそれぞれ異なり難しい問題だと思います。これからも継続し、努力していきましょう。

来ハトメ環境トピックス2022

③ 長年の努力、ここに結実！

～弊社社長 来 昌伸 八潮市優良技術者及び技能者に認定される～

「会社の宝」から「八潮市の宝」へ

「SDGsは意外と簡単」、「脱炭素をやっていかなければ生き残れない！」こうした数々の影響力抜群(?)な環境格言の生みの親こそ、弊社代表取締役の来 昌伸。

1976(昭和51)年4月に弊社来ハトメ工業株式会社入社後、技術畑一本で歩み続けた、いわば根っからの職人。

2013(平成25)年に弊社代表取締役に就任。しかしその後も現場のトップであり続け、技術者として弊社の現場を牽引。自身の技術の研鑽を重ね続け、現在に至っています。社長がこうして培った技術はいわば弊社にとっての宝物。その宝物が2022年11月、会社の枠を大きく飛び越え「八潮市の宝」として、認定されることとなったのです。



社長就任後に受賞した数々の賞状と共に(2022年6月撮影)

「八潮市優良技術者及び技能者表彰」制度

弊社が事業活動をさせて頂いている八潮市では、平成15(2003)年より「八潮市優良技術者及び技能者表彰」制度がスタートしました。

「市内の産業における技術者・技能者の発掘とその技術・技能の継承、後継者の育成を図るため」(八潮市ホームページより)

というのがこの表彰制度の趣旨であり、創設以後19年間に認定された方はわずか35名というなかなかの狭き門。それゆえにその認定に至る過程は実に厳格。市職員による複数回の面接、市の評価会での動画による技術審査を経て表彰に値する技術



来社長の作業風景

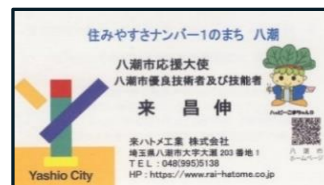
者・技能者であると認められた者のみとその名誉に与るに足る資格者として認定される、という途方もない過程を踏まなければならないのです。しかし、弊社社長はこうした難関をすべてクリア。令和5年1月31日、晴れて市内36人目の「八潮市優良技術者及び技能者」として認定されるに至りました。



表彰式・他の受賞者と共に(2023年1月31日)

社内でも社外でもフル回転

八潮市優良技術者及び技能者、認定を受けると実はおまけがついてくる——。そのおまけとはズバリ「八潮市応援大使」。



八潮市応援大使の名刺

八潮市のさらなる魅力の向上とイメージアップを図るための活動を担うのがその役目、だとか。現時点でわずか38名のみが名乗ることの許される名誉ある役割であるだけでなく、任命されると八潮市のゆるキャラ「ハッピーこまちゃん」が印刷されたPR用の名刺が支給される、とのこと。社長がこの名刺を配る姿を目の当たりにしたことがあります、その度にいつも思うのは「ハッピーこまちゃん」、やっぱりかわいい。社長とは直接関係ありませんが……。

更に来社長、2023年4月からは八潮市防火安全協会の会長にも就任。昨今のプロ野球では投打の二刀流が話題になる中、弊社の社長は実に三刀流！こんな社長の下で働けることが一社員としてちょっと誇らしかったりもします。

SDGsの世界では目標17(パートナーシップ)が一番重要で、一番難しい。SDGsを始めた初期の頃、よく耳にしたものです。しかし弊社では社長自ら行政とコラボし、自らの行動で目標17の取組を示してくれている。こんな「生ける教本」を得た弊社。社長に引っ張られながら、これからも環境・SDGsへの取組は盛り上がっていく。そう確信しています。

8.PDCAで見る2022年度環境活動

弊社を、もっと知ってほしいから～その他の環境活動(ステ

以下の活動は、今までに御紹介した法規制遵守、緊急事態対応、KPI(重要業績評価指標)設定項目以外の当社の環境活動と関連SDGs及び昨年度の取組状況の評価になります。

Plan 計画 Do 実施 Check 確認 2022年度環境経営計画、SDGs及び実施状況の評価

	取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
適正管理	サプライヤー調査及び不 使用証明書発行依頼 (石原 隆雅)	  	7点	毎回実施するも3件納期超過があったため3点減点。 次年度は納期に細心の注意を払う。
	作業場へのSDS設置 (山崎 洋幸)	 	10点	使用箇所近辺にファイル管理。 安衛法義務につき当然継続実施。
	化学物質調査実施 (石原 隆雅)	 	10点	顧客より要請時に都度実施。 次年度も継続(新規採用時にも実施する)。
	リスクアセスメント (山崎 洋幸)	   	10点	2023年2月に実施(炭化水素)。 次年度新規採用等あれば実施。
	化学物質に関する教育 (加藤 直)	   	10点	計画2回実施2回(計画通り)。 次年度も年2回の実施を計画。
	取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
活動の質の維持・向上	エコ替え提案につい での検討及び導入の 決定 (来 満、来 昌伸)	 	10点	エアコンの入替、灯油暖房器の廃止につ いて計画通り実施(一部補助金活用)。 次年度はセンサーライト化等を検討中。
	資格取得支援 (来 満、来 昌伸)		10点	2022年度当該事案1例。 次年度も実施。
	環境省事業の改善提案 の実施 (来 昌伸、有山 浩一郎)	  	6点	提案11件、実施7件。 本件については今年度にて一旦終了。
	eco検定講座実施 (来 博行)		10点	計画・実施共に12回(計画通り)。 次年度も年12回を計画。
	セミナー情報の案内 (石原 隆雅)		5点	主に外部向けで社内向けはなし。 次年度も実施。
	取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
訓練の実施	製造部門環境教育 (来 淳一郎)		10点	計画年4回実施4回(計画通り実施)。 次年度担当を変更し継続実施。
	管理部門環境教育 (佐々木 勝)		10点	計画年4回実施4回(計画通り実施)。 次年度も年4回の実施を計画。
	コスト意識改善(備品の 価格表記及び管理) (大小堀 レオニラ)	 	4点	前年度同様、持出情報の活用、改善には 踏み込めず。 次年度実施のための工夫が必要。
	取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
5Sの徹底	5S活動実施(グループ (全従業員)	 	10点	各グループ毎月実施(計画通り)。 次年度も同様の目標にて実施を計画。
	5S活動活性化の推進 (山崎 洋幸)	 	10点	毎月掲示及び朝礼啓発を実施。 次年度も同様の目標にて実施を計画。

ークホルダーエンゲージメント)～

そのいずれも、お客様、従業員の家族の皆様をはじめ全ての関係者様に当社を知って頂き、弊社のファンになって頂くための活動となりますので「ステークホルダーエンゲージメント」という視点でこれらの活動の実施状況を御紹介します。

	取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
生物多様性の保全 に関する取組	生物多様性教育の実施 (石原 隆雅)		10点	計画・実施共に4回(計画通り)。次年度も年5回の実施を計画。
	森林認証品使用及びび切替 (福田 則子)		10点	積極的に森林認証品を使用。次年度も継続実施。
	用水路の定点撮影 (石原 隆雅)		10点	計画年4回、計画通り実施。次年度も継続して記録。
	定点撮影結果の分析 (石原 隆雅)		10点	専用フォーマットに掲示比較可能な状態で記録。次年度も継続して記録。
	取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
地域貢献	環境ボランティア参加 (来 昌伸)		10点	全て参加することができた。次年度も継続(新規参加者の勧誘も実施)。
	ボランティア実施報告 (ボランティア参加者)		10点	社内メール活用し計画通り実施。次年度も同様の方法で継続。
	ペットボトルキャップ 収集及び寄付 (来 博行)		10点	2022年度8,623個、累計65,118個のペットボトルキャップを収集・寄付。次年度も継続して実施。
	取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
SDGs	SDGs個人目標への行 (全従業員)	※	7.6点	各自実施(評価点は「私のSDGs」平均点)次年度も継続して実施。
	SDGsに関する情報発信、啓発教育 (石原 隆雅)		10点	「月刊 まいにちSDGs」毎月発行及び外部発信を実施。次年度も継続して実施。
	取組概要(担当者)	SDGs	評価点	寸評・次年度の取組
情報開示	環境経営レポート及び活動状況の公開 (石原 隆雅)		10点	2022年8月にホームページリニューアルし、情報量更に豊富に。次年度更にパワーアップ予定。
	PR動画サイトの運営及びメンテナンス (石原 隆雅)		0点	動画アップ年0本(制作は1本)。次年度も動画アップを計画。
	レポート及び動画サイト更新案内等外部組織との情報交換。 (石原 隆雅)		10点	レポート更新情報をメールにて各所に連絡。配布も行った。次年度も継続して実施。

※SDGsの取組は、個人により異なります(「私のSDGs」(7～12頁)御参照下さい)。

8.PDCAで見る2022年度環境活動

お客様の最重要関心事項だからこそ～化学物質管理～

化学物質管理は弊社のお客様の環境面における最大の関心事項。

化学物質関連の事故を絶対に起こさぬよう、納入時、使用時の取扱いはもちろん、調査依頼への誠実対応、従業員教育に至るまで万全な体制で管理しています。
ここでは、弊社化学物質管理体制の一部をご覧ください。

1) **Do** 万全な材料・副資材管理(SDSの作業者への周知)

弊社はアルミプレス加工専門の会社。従って、材料(アルミ条)と潤滑油、洗浄剤(炭化水素)の3点には、特に注意を払い管理する必要があります。

弊社ではそれらの安全性を担保するため、顧客要請時以外にも、年に一度当該材料・副資材のSDSを請求。最新版を常に使用場所に常備し、安衛法の周知義務にも万全対応しています。



各使用場所に設置されたSDS

2) **Do** 迅速かつ誠心誠意の御対応(化学物質調査依頼)

例年同様、禁止化学物質の増加は、留まるどころを知りません。

2022年度もREACHの3度の追加、環境データ提出依頼、某化学物質製造撤退に伴う影響調査、顧客の禁止物質リスト更新に伴う調査といった様々な御依頼を頂戴し、都度誠心誠意対応しました。

次年度以降もこうしたお問合せに誠実に対応し、弊社製品の安全を担保していきます。

年・月	御依頼内容	結果
2022.5	REACH SVHC第26次(4物質)含有調査依頼	既知の含有なし
2022.6	REACH SVHC第27次(1物質)含有調査依頼	既知の含有なし
2022.11	SGS環境データ(最新版)送付依頼	送付
2023.1	REACH SVHC第28次(9物質)含有調査依頼	既知の含有なし
2023.1	某社某物質製造撤退に伴う影響調査	影響なし
2023.2	客先不使用物質リスト更新に伴う調査依頼	全対象物質非含有

2022年度化学物質調査依頼とその回答結果

3) **Do** リスクアセスメントを実施し結果を基に注意喚起

2022年度は弊社で使用する化学物質の大幅見直しを実施。変更実施に際しては、各顧客に丁寧に御説明、客先のルールに則って手続を進めさせて頂きました。

また、変更に伴い、変更する物質のSDSの情報を基にリスクアセスメントを実施。その結果に基づき、危険性を作業者に通知すると共に、その使用場所にGHSラベル及び危険有害性を掲示し、作業者への注意喚起に努めています。



自主性重視の活動が成長を後押し～従業員の取組～

環境への取組を通じて従業員に期待することはズバリ「自主性」。言われて行う取組ではなく、自主的な行動に基づくものとなるように工夫されています。

取組の中で様々な提案や環境教育の講師といった重要な役割を付与。活動当初こそ「どうしよう……」と戸惑う従業員がほとんどだったものの、現在ではこうした経験を自身に変え、多くの従業員が成長。言わなくても動いてくれるので、責任者は大変楽だとか……。

1) Do 実施 より安全・快適な職場環境を目指して～5Sの取組～

「ただでさえ忙しいのに、そんなこと毎月してるヒマないから！」5S開始早々、大拳して押しかけてきた従業員の説得から始まったこの活動ではありましたが、今日まで無事継続。

机周りの使い勝手の改善、傷んだもの入れの交換、普段なかなか掃除出来ないすき間の清掃……。今年も日頃の従業員の「気づき」から、様々な改善を着々と進めることができました。

この5S、2022年度からは労働安全衛生と絡めた活動へとパワーアップ！職場の危険箇所除去の改善活動も着々と進んでいます(23頁の事例を是非ご覧ください)。

ところで、9年前私のところに大拳してきた従業員たち、その後は今に至るまで協力的に取組を実行してくれています。



毎月の5S活動の一例
(2021年度5S活動より抜粋)

3) Do 実施 年間40回実施！数の力で叩き込む環境意識 ～環境教育～

コロナ以降、掲示による教育という形で継続している環境教育。右の表の通り年間40もの実施を計画。2022年度も無事、これを全てやり切ることができました。数の力で環境意識を徹底的に叩き込み、SDGsや脱炭素といった一歩踏み込んだ取組を進めていきやすい土台を作っているのです。

弊社の環境教育のすごいところは、その回数もさることながら、全て講師の自主性で回っていているということ。右の表にある担当者が、こちらから何を言わなくとも資料作成から公表までを自主的にこなしてくれるのです。

掲示の状況については、ちょっと見づらいかも知れませんが、上の写真でも確認することができます。

月	日	講座名	講師	実施	月	日	講座名	講師	実施
1	予備日	-	-	-	6	災害の心構え	佐々木	○	
8	ガソリン	茶(尊)	○	9	13	ガソリン	茶(尊)	○	
3	15	法規制	石原	○	20	生物多様性	石原	-	
22	生物多様性	石原	-	27	eco検定講座	茶(博)	-		
29	eco検定講座	茶(博)	○	4	予備日	-	-		
5	予備日	-	-	11	法規制	石原	○		
12	電力	田辺	○	18	労働安全衛生	山崎	○		
19	労働安全衛生	山崎	○	25	eco検定講座	茶(博)	○		
26	eco検定講座	茶(博)	○	1	予備日	-	-		
3	祝日(憲法記念日)	-	-	8	化学物質	加藤	○		
10	化学物質	加藤	○	15	水	富本	○		
17	予備日	-	-	22	廃棄物	加茂	-		
24	法規制	石原	○	29	eco検定講座	茶(博)	○		
31	eco検定講座	茶(博)	○	6	予備日	-	-		
6	7	災害の心構え	佐々木	○	13	ガソリン	茶(尊)	○	
14	ガソリン	茶(尊)	○	20	電力	田辺	○		
21	廃棄物	加茂	○	27	eco検定講座	茶(博)	○		
29	eco検定講座	茶(博)	○	3	冬期休業	-	-		
5	予備日	-	-	10	予備日	-	-		
12	水	富本	○	17	生物多様性	石原	○		
19	生物多様性	石原	○	24	法規制	石原	○		
26	eco検定講座	茶(博)	○	31	eco検定講座	茶(博)	○		
2	予備日	-	-	7	予備日	-	-		
9	法規制	石原	○	14	生物多様性	石原	○		
16	夏季休業	-	-	21	期末テスト(法、生物)	石原	○		
23	電力	田辺	○	28	eco検定講座	茶(博)	○		
30	eco検定講座	茶(博)	○						

2022年度の教育・訓練プログラム

8.PDCAで見る2022年度環境活動

丁寧な情報開示で広げた縁～環境情報開示に関する取組～

他社を見習い工夫を重ね、作り続けた環境経営レポートも今作で14作目。毎年平均制作期間は約3か月、単純計算すると携わった14年間の内の3年半をこの制作に充てていたことになります。レポートのネタのために計算してみたものの、これは自分にとっては知らない方が幸せだったかも知れない……。まさに身から出た錆。計算してしまったことを今猛烈に後悔しています……。

とは言え、他社で環境に携わる方に始まり、自治体、学生、土業の先生方、遂にはお笑い芸人に至るまで実に広範囲の方と、レポートを通じて様々な形で御縁を持たせて頂くことができたのもまた事実なのです。

ここではそんなレポートの公開媒体を一挙御紹介。当社が環境と真面目に向き合っていたことと私が無駄に生きてきたことを感じ取って頂けたら制作者として嬉しいのです。

1) 丁寧な情報開示と多様な媒体による公開(環境経営レポート)

以下の各媒体にて当社環境経営レポート絶賛公開中です。

当社環境経営レポート公開ウェブサイト一覧

■ 弊社ホームページ(2022.8リニューアル!)

2010年版～2022年版まで公開中
<http://yashio@rai-hatome.co.jp>

上のメニューバー「品質・環境への取組」→「環境活動(経営)レポートはこちら」のアイコンをクリック。

審査終了後(9月頃予定)に最新版を公開予定。



QRコード

■ ea21中央事務局ウェブサイト

最新版のみ公開

www.ea21.jp/

トップページ→認証・取得された事業者の方へ→環境経営レポートについて(右画面)検索欄

「認証・登録番号(0005644)」または「事業者名(来ハトメ工業)」と入力し「上記の内容で探す」をクリック。



QRコード

■ CSR図書館.net

2015～2022年版まで公開中

csr-toshokan.net/

トップページ下の「報告書検索」(四角囲み部分)に「来ハトメ工業株式会社」と入力し「検索」をクリック



QRコード

来ハトメ環境トピックス2022

④ 環境情報開示の形あれこれ

～自社ウェブサイトからラジオ出演まで～

環境開示はレポートのみにあらず

環境認証の2台巨頭、ISO14001とエコアクション21の一番の違いは何でしょう？まあ色々な答えが出てきそうな問いであるのは間違いなさそうですが、私ならこう答えます「レポート作成があるか無いか」。

環境経営レポート。自社の環境経営について社会に知って頂くための媒体として、エコアクション21ではその作成が要求事項の一つになっています。この制作に一生懸命取り組んだ結果については前の頁で示した通り。相当な可能性を秘めたものであることは間違いありません。環境経営レポートで社会的な知名度と多くの仲間を得た身としては「エコアクション21を取得してよかった」と心から思うわけですが、弊社の環境情報開示、実はそれだけにはとどまりません。ここでは、実はレポートだけではない弊社の環境開示ツールを一挙御紹介します。

その①自社ウェブサイト

まずは、自社のウェブサイト。今はかなり定番な環境情報開示手段で、各社様々な工夫を施し、自社の環境への取組に使われているようです。

この辺りは弊社も例外ではなく、自社ホームページに歴代のレポートを掲載しています。以前のホームページは、クリエイターが制作したもので、ホームページを作るための言語であるHTMLが分からないとメンテナンスができない代物。その改変には相当な知識が必要で、一度独学で挑戦しようと試みたもののあえなく断念。長らくその作り直し作業が、弊社の悩みの種になっていました。

しかし、ホームページの世界も日進月歩。調べてみると、HTMLの知識がなくともプロ並みのホームページを作成できる「CMSツール」なるものが



リニューアルした弊社ウェブサイト

数多くあることを知り、調査の上その提供を行う一業者と契約。念願であり、懸案でもあったホームページのリニューアルが2022年8月に実現しました。

リニューアルした弊社ウェブサイトでは、弊社が発行した全ての環境経営レポートから、環境各賞授賞式のこぼれ話まで、盛りだくさんの内容。宜しければ是非一度覗いてみてください。

その②動画チャンネル

最近更新を怠っているのでも、ごくごく簡単に…。「来ハトメ環境・CSRチャンネル」を2022年4月開局。数本の動画がアップされています。しかし、動画の制作は思った以上に手間がかかり、更新は不定期となってしまっているのが現状。ここが充実できれば、とは思うものの、なかなか難しい……。今後はリニューアルしたホームページの更新に力を入れることになるのでは？と弱気なコメントを残し、この部分はしめさせて頂きます……。

その③その他

その他、「オファーがあれば受ける」をモットーに、様々なメディアにて情報開示を行っており、今までにテレビ埼玉のニュース番組「埼玉ビジネスウォッチ」で2度取り上げて頂いたことを筆頭に、様々な雑誌、単行本……といった様々な媒体に御掲載頂いた実績があります。

ちょっとすごいところでは「平成25年版環境白書」(環境省)にて事例を取り上げて頂いたこともありました。いつの間に10年過ぎていましたが、今でも弊社の誇りの一つです。

「オファーがあれば受ける」。2022年度も終始この姿勢を貫きました。まあ、そんなにオファーがあるわけではないのですが……。

その中で特筆すべきはやはりこれ(本来3月の出来事なので来年版に掲載すべきなのですが、新鮮な内に調理したかったのと単純に嬉しくて誰かに聞いてほしいというのでフライングして今年のレポートに載せちゃいます)。TOKYO FMの朝のニュース番組「ONE MORNING」内の1コーナー「オーステッドpresents Green Future for all」に出演させて頂いたのです。

写真は収録風景。オンエアされた日の弊社ウェブサイトアクセス件数は平時の約8倍になったとか……。ラジオの力、恐るべし！



8.PDCAで見る2022年度環境活動

ハッピーな未来への「予防」と「種まき」～未来に向けた

当レポートの制作を1月末にスタートさせてから早4ヶ月半。いつもより早く終わらそうと意気込み、早く始めてみたものの結局終わりはいつもと同じ……。悲しいかな中々思惑通りには進まないものです。

そんなレポート制作作業、毎度制作途中は「今年の出来はイマイチかも……」と思いながら進めていくのですが、終わりに近づくと日に日に作品に愛おしさを覚え、完成したときに決まって芽生えるのは「今作が一番！」という、全く根拠のない自己満足——。今作の制作も終わりに近づいてきている今、作品への愛おしさがだんだん芽生えてきています。

そんな制作者たる自分にとっては最高に愛おしい今作のトリはやっぱり、例年通り弊社の環境に対する最も強い想いと優しさの詰まった活動であるボランティアや生物多様性、SDGsといった未来を見据えた諸活動の報告にて締めさせていただきます。

1) **Do** 市内美化のために立ち上がった10名の有志達(環境ボランティア)

弊社が長年にわたり参加している八潮市防火安全協会主催、月1回開催の環境ボランティア。

当初は参加事業者も多く、毎回20名以上が集まる盛大な活動でしたが、残念ながら昨今は毎回10名弱の活動に細ってしまっています……。

しかし、そんな中であって弊社は賛同者を増やし、メンバーを10名に増員。毎月欠かさずボランティアに参加する体制を整えています。

これからも弊社有志の熱い思いと行動が、街の美化の一助になればと思います。

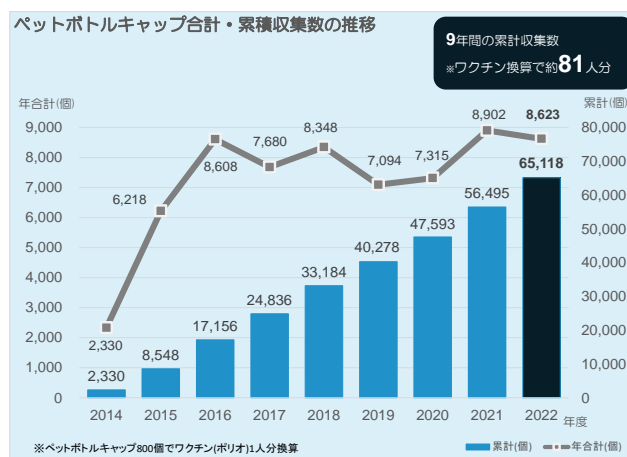


2) **Do** 全員で力を合わせて救った81名の命(ペットボトルキャップ収集)

2014年スタート。飲み終わったペットボトルキャップを地道に集め、寄付をするというシンプルな活動ですが、9年の間に、ポリオワクチン換算で合計81人分相当量を集めることができました。

昨年の合計収集量は8,623個。これを弊社従業員数(35名)で割ると1人あたりおよそ246個。全員が一生懸命協力していることがお分かり頂けるかと思います。

因みにこの取組、「私のSDGs」の個人取組としても、女性を中心に人気の取組です。



さまざまな取組～

3) Do 実施 生物多様性をクイズで学ぶ(生物多様性教育)

生物多様性については、まずは身近な課題を知ることが何よりも重要。弊社では生物多様性関連の知識については、全員参加のクイズ形式で楽しみながら習得してもらうことに努めています。

クイズ形式ですが、そんなに厳密なものではないのが特徴。自力で解答して自らの実力を知るもよし、インターネット等で調べるもよし、はたまた相談しながら回答するもよし、といった感じです。

テストというよりも環境や生物多様性関連の話題提供といった意味合いが強いもの、と思って頂けると良いのではないかと思います。

第1問(復習問題、2ポイント)
 ブラックバス(特定外来種)釣れたので、自宅の水槽で飼育するために持ち帰った場合、逮捕される可能性がある。
 ① ○ ② ×

第2問
 現在、1年間に約()種の生き物が絶滅していると言われている。
 ① 40 ② 400 ③ 4,000 ④ 40,000

(解説)

第1問
 復習問題ですので、正解者には2ポイント差し上げます。
 特定外来生物を生きのまま移動したり、飼育・栽培・保管・運搬・販売・譲渡・輸入・野外に放つことなどは原則禁止されています(外来生物法)。これに違反すると3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金(法人の場合は1億円以下の罰金)となるため、注意が必要です。
 但しブラックバスなどは、釣った後、その場所で放す行為(キャッチアンドリリース)をすれば、罪に問われることはありません。
 答 ①

第2問
 種の絶滅速度に関する問題です。
 2億年くらい前の恐竜がいた時代は、1000年間で1種の生物が絶滅していました。しかしそれが100年前には1年に1種のペースになり、1975年には1年に1000種類。今では1年間に4万種類以上の生物が絶滅しているといわれています。1日あたりに換算すると100種類以上の生物が絶滅していることとなります。
 答 ④

2022年9月実施分の問題(上)と解説(下)(抜粋)
 テスト終了後には丁寧な解説も全員に提供している。

4) Do 実施 今年も何とか月刊体制を維持(月刊 まいにちSDGs)

毎回毎回同じことを書いているような気がしますが、社内のSDGsの取組の中で、実は一番大変なのが、この「月刊 まいにちSDGs」の発行。

審査のタイミングが迫ってこようが、家族や社内でコロナ感染者が多発しようが、2022年度においても何とか月刊体制を維持。気づけばこの制作が月末の恒例行事と化している状況、です……。

次回の環境経営レポートのこの位置に「月刊 まいにちSDGs」の情報がなければ、それは休刊(廃刊)の証……。そうならないように、これからも頑張ります。

第60号(2022年12月発行)

Act 見直し その他の取組に関する代表者の評価・指示

環境ボランティアに参加した歴史は15年ほど前から。私が防火安全協会役員に就任した時からだと記憶しています。当初は2名からのスタートでしたが、現在では総勢10名。「継続こそ力」。これからも市内美化のため、頑張っていく所存です。

8.PDCAで見る2022年度環境活動

SDGsで見る2022年度環境活動総括

Check 2022年度環境経営計画SDGs評価点採点結果

当社の2022年度の環境活動計画をSDGs化し、各ゴールに該当する活動の数(アイコンベース)を集計した結果は、以下の通りとなりました。

NO.	アイコン	SDGs目標	具体的施策	取組数	※合計数
1		貧困撲滅	募金 ボランティア	1	1 (1)
2		食糧問題解決	食べ残し防止	0	0 (0)
3		健康	禁酒、禁煙、運動 労働安全	6	6 (4)
4		教育	学習	30	30 (28)
5		男女平等	家事分担	2	2 (2)
6		水	水質汚濁防止 節水	11	11 (10)
7		エネルギー	クリーンエネルギーへの転換	6	6 (4)
8		経済成長、労働	雇用 売上目標達成	5	5 (5)
9		インフラ、産業化	生産 不良削減	13	13 (11)
10		不平等是正	賃金改善 外国人差別改善	0	0 (0)
11		都市、居住	住宅購入 防災、SDS	14	14 (13)
12		生産、消費	グリーン調達 廃棄物、CSR	41	41 (33)
13		気候変動対策	温室効果ガス削減	19	19 (18)
14		海洋保全	海洋汚染防止 生態系保護	3	3 (3)
15		陸域保全	生態系保全 砂漠化対策	6	6 (6)
16		平和、司法	戦争撲滅、政治参加 コンプライアンス	12	12 (10)
17		パートナーシップ	企業間協力 諸団体活動への参画	4	4 (4)
2022年度取組SDGs合計数				173	(152)

※合計数の()内の数字は前年度実績を表します。

計画したもののやむを得ない事情で実施できなかったもの(評価(-)のもの)は合計数に含みません。

2022年度の取組SDGs数に関する振り返りと次年度以降の課題

SDGs取組数の振り返り

昨年度よりアイコンベースで21個の大幅増加。新たに8項目の環境経営計画を追加したことが増加に転じた理由です。昨年度より活動の幅を拡げようとした結果の表れであり、一定の評価には値するものと考えます。

次年度以降の課題

環境経営目標をSDGs化したものであるため難しい部分はありますが、やはり経済と社会の取組の薄さは否めません。これらが環境とどのように結びつくかを考え、取組に追加すること。これが次年度以降の課題です。

Check 2022年度環境経営計画SDGs評価点採点結果

この頁は、当レポート19～48頁に記載した取組毎のSDGs評価点を集計したものです。取組内に複数のSDGsがあるものについては評価点はどちらも同じ点数として集計し、最後にそれぞれの平均点を算出し2022年度のSDGsの評価点としました。

NO.	アイコン	当社の主な取組	掲載頁	採点結果	※評価点
1		キャップ収集	40	10.0	10.0 (10.0)
2		取組なし	—	0.0	0.0 (0.0)
3		労働安全衛生 災害物資備蓄	22,23 30,39,40	9.2	9.2 (10.0)
4		教育(全般)	19～23 29～40	9.5	9.5 (9.6)
5		5S	39	10.0	10.0 (10.0)
6		訓練(潤滑油漏洩) 教育(水)、生物多様性(定点撮影)	23 35,40	9.0	9.0 (9.9)
7		エコ替え、フィルター交換(灯油) エコドライブ、省エネ診断	29,30 39	7.7	7.7 (10.0)
8		緊急事態(洪水) 電力事業者比較、廃アルミ価格表記	23 29,33	8.0	8.0 (6.0)
9		緊急事態(洪水)、廃アルミ 化学物質(使用機器の点検)	23,33,34 36	8.2	8.2 (6.7)
10		取組なし	—	0.0	0.0 (0.0)
11		騒音測定、緊急事態 化学物質管理、ボランティア	22,23 39,40	9.4	9.4 (8.3)
12		安全衛生教育、各種環境負荷物質 化学物質管理、省エネ診断,CSR	19,23,29～37 39,40	8.4	8.4 (8.8)
13		簡易点検、エネルギー使用削減 省エネ支援	22,29,30 39	8.7	8.7 (8.4)
14		教育(生物多様性)	40	10.0	10.0 (10.0)
15		教育(生物多様性)、森林認証紙使用 環境ボランティア	40	10.0	10.0 (8.2)
16		法令遵守 教育(化学物質、生物多様性)	22 39,40	9.3	9.3 (9.9)
17		ボランティア SDGs情報発信、啓発	40	10.0	10.0 (9.8)
2022年度評価点平均(前年度)					8.9 (8.9)

※評価点の()内の数字は前年度実績を表します。

SDGs評価点の振り返りと次年度以降の課題

昨年度と変わらず。計画したものの実施されなかったという項目が少なく抑えられたこと、全体的に数値目標の達成率が高かったことがこのような高い成績に繋がったものと考えます。次年度以降はさらに上(評価点9点台)を目指していくこととなりますが、そのためには計画倒れの項目をゼロにすること、毎回評価点が低い部分につ

いて、点数アップのための取組が必要になってくるかと考えます。点数が低い項目の共通点として、具体策が見つからない、品質向上が必要といったことがあります。改善は難しいですが、改善出来れば大きなメリットがあるものばかり。知恵を絞る価値は十分にありそうです。

8.PDCAで見る2022年度環境活動

来ハトメ環境トピックス2022

⑤ 届け！金の卵たちへの魂のメッセージ

～『埼玉県環境学習応援隊』出前授業～

夏の終わりに届いた「嬉しい知らせ」

「石原さん、〇〇中学校から。」

お盆休みも明け、夏も終わりに差し掛かろうとしていた8月24日の朝のこと、作業の音にかき消され、中学校からとだけはっきり聞こえた電話を恐る恐る耳元へ。というも、わが家の娘はそのとき中学3年生。受験生の娘への担任からのお小言か、はたまた何かやらかしたのか……。しかし、その電話の主、実はとても意外で、とても嬉しい知らせを私にもたらして下さったのです。

電話の主は蓮田市立黒浜中学校の1年生担当の先生。聞くと、「埼玉県環境学習応援隊」の制度で、同校1学年の生徒様約120名を対象とした出前授業をお願いしたい、とのこと。

学生時代の夢は中学校の教師になることだった私。この知らせ、嬉しくないはずがありません。その日、家族への報告を楽しみに意気揚々と帰宅した矢先、高校生の息子の新型コロナ感染が発覚。昼間の有頂天から夜は奈落の底へ。一日にして予想外の2つの大ごとを経験しある意味特別な一日となりましたが、ものは考え様。5日間の自主隔離期間をプレゼン資料と生徒様向のアンケート作成のために有効活用させて頂いたのです。

埼玉県環境学習応援隊

すみません。ちょっと自分語りが過ぎたようで、肝心な情報を落としてしまいました。蓮田市立黒浜中学校と当社を繋いでくれたこの「環境学習応援隊」、実は埼玉県が実施している環境政策の一つで、民間企業等が有する環境保全のノウハウや環境学習プログラムなどの提供を通して、学校における環境学習を支援するため、環境問題や環境教育に関心が高い企業等を「環境学習応援隊」として登録し、学校に派遣するという制度。現在56社が登録しており、当社は昨年9月に登録。登録してから1年間は何の音沙汰もなく「登録して終わりか……」と思っていたところの、突然のオファーだったのです。

アンケートでお手並み拝見、してみると……

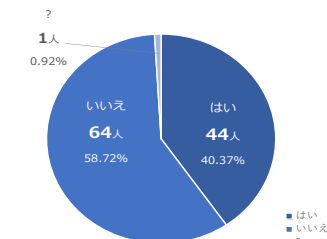
今回の出前授業の対象は中学1年生。年齢で言うと12～13歳。今回出前授業をするにあたり、生徒の皆さんの環境に関する意識を知っておきたい、また、一方通行とならぬよう事前コミュニケーションを取っておきたいということもあり、事前アンケートを御連絡を頂戴した先生を通じて依頼。ほどなくして頂いたその結果は実に意外とも言えるべきものでした。

驚きの環境意識の高さ

● 環境の仕事への興味

中学生の環境に関する仕事への関心は高いようで、4割超の生徒が「はい(興味がある)」と回答。

興味があるだけでなく、仕事内容について



Q.あなたは環境の仕事に興味がありますか？

熟知している方が多いというのも印象的でした。別の質問で「環境のお仕事についてのイメージ」について質問したところ、清掃や自然環境の保全といった身近な環境関連の仕事に混じって「社内の環境教育」や「社内の取組を色々な人に伝える」といった、まさに一般企業の環境責任者に求められる(けどなかなかできない)仕事まで見事に言い当てた生徒様がおられたのには正直驚きました。

● 地球環境問題への知識量の多さ

Q.あなたが知っている「地球環境問題」を教えてください

順位	知っている(聞いたことがある)「環境問題」	人数
1位	地球温暖化	98
2位	水質汚染、海洋汚染、プラスチック問題	67
3位	森林破壊	31
4位	大気汚染	29
5位	食品ロス	18

上の質問は、複数回答可という条件で、知っている地球環境問題を挙げて頂いた結果を表したものの。こちらについても、現在深刻であり早急に取組むべきと考えられている地球環境問題をブレなく認識されているということをよく示した結果、と言えるでしょう。

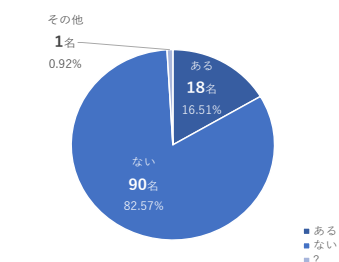
なお、本番の出前授業ではこれらを解決するためにできるさまざまな活動が「持続可能な活動」であり、小さなことでもできることから始めて頂くことが大切、とまとめさせて頂きました。

● 一方で、こんな現実も

あなたは、このマーク(エコアクション21のロゴ)を知っていますか？の回答結果は右の通り……。

エコアクション21の知名度アップのためにもっと頑張らなければ……。と正直思った次第です……。

Q.あなたはこのマークを知っていますか？



いざ、本番へ!!

「自分には似たような世代の子供もいるし、今までに何度かセミナーの事例発表も経験してるし、全然大丈夫でしょ。」いざ出前授業に臨ませて頂くと、そんな考えが悉く間違いだったことに気付かされることとなったのです。聞く態度は驚くほど立派。どの方も私の拙い話を微動だにせず聞いてくださっているのです。しかし、はっきり言って反応はさっぱり。ウケを狙ってぶっこんだネタ(出前授業でネタというのもどうかとは思いますが……)も完全スルー。生涯初の出前授業は意気消沈の下、幕を閉じることとなってしまったのでした……。



まさかの連続オファー

不思議なもので、続くときは続くもの。蓮田市立黒浜中学校から出前授業のオファーを頂いてからほどなくして、今度は鴻巣市立共和小学校6年生担任の先生より「SDGsの出前授業をお願いします」とのオファーが……。

さすがに2回連続無反応だけは何としても避けたい。そのためには「SDGs」というお題をいかに楽しく学んで頂くかが最大のポイント。そこでまず登場願ったのが人気

2.SDGsってどんなもの？
SDGsっていったい何者？
GOALS 皆さんの行動を「持続可能」にするためには？
・ 環境のため
・ 世の中のため
・ 自分の将来のため
になることをすればよい！
実はこれだけでSDGsができてしまいます！

小学生向講演スライドより

Youtubeチャンネル「テイペン」のパンダ。彼の力と、先生の御配慮、生徒数9名という大変アットホームな教室、そして何より意欲的な生徒の皆様のお陰で、楽しく出前授業を進めることができました。

肝心な中味、ですか？こちらについては、SDGsができた背景やSDGsの仕組みを説明。そして弊社発「私のSDGs」についてもちゃっかり御紹介、その後実際に児童の皆様にも「私のSDGs」に挑戦して頂いた、といった感じです。

「嬉しさ」と「難しさ」そして「感動」

こんな感じで2度にわたり経験させて頂いた出前授業。終わってみれば貴重な機会を得た「嬉しさ」と次世代へ伝えることの「難しさ」という、日常の仕事では経験し得ない様々な経験の連続。どちらかと言えば、反省の方が圧倒的に多いほろ苦いものでした。「伝える能力、まだまだ全然足りないな」、と……。

こんな反省を一通り終えた頃、出前授業をさせて頂いた2校から私宛の郵便が。封を開けてみるとどちらもきれいな装丁を施された児童、生徒の皆様からのプレゼント。そこには、私の出前授業を受けて下さった皆さんからの「お礼の言葉」が綴られていたのです。

「SDGsは難しいと思っていたけど、自分にもできることも分かった」、「環境の仕事に興味を持つきっかけができた」等々、そこには涙が出るほど嬉しいたくさんの言葉がぎっしりと詰め込まれていました。環境への取組について、これからの世代が我々の想像以上にポジティブに捉えてくれることが実に印象的で、頼もしさすら感じました。

2050年カーボンニュートラルをはじめ、現在の常識では実現不可能と思わざるを得ない要素てんこ盛りなのが、悲しいかな今の環境の世界的実情……。ですが、次の世代はそんな難題をポジティブに捉え、立ち向かおうとしてくれているのです。

そんな頼もしい彼らへとバトンタッチするときまで、もう少し真剣に頑張ってみようか！そんな、強い想いと共に幕を閉じた私の初出前授業体験談、でした。



おまけ～環境に携わる全ての方へ～

環境の仕事はカッコいいと思いました。なぜなら、私たちに見えないところで、地球、未来の子供たちのために頑張ってくれて、まさにみんなのヒーローです。陰でみんなを支える「ヒーロー」。こんな身近に、ヒーローはいたんだなあ、と実感しました(ある生徒様のお礼の言葉より)。

環境に携わる全ての方は「ヒーロー」！未来の金の卵たちは、そう思ってくれてますよ!!

9.代表者レビュー



1) 全体的な感想

各項目毎の削減目標に対し、ほぼ達成出ていると思われます。
2023年度以降も同様、社員一同心を同じにして、頑張りましょう。

個別の項目毎の評価と指示内容については、24～48頁を参照下さい。



2) 指示

① 環境経営方針

2021年度に環境省「令和3年度中小企業の中長期の削減目標に向けた取組可能な対策行動の可視化モデル事業」の参加事業者として選定頂き、省エネ診断や専門家との対話を通じ、企業として将来的に脱炭素を推進していく必要性を強く実感した次第です。

弊社ではかねてよりCO₂排出量目標については長期目標(2030年度に2013年度比50%削減)を策定していましたが、より一層の脱炭素化が求められるようになった現在の状況からすると、若干不足感が出てしまったようにも思います。

については、先述の環境省事業にて専門家の皆様から頂いた助言、環境管理責任者からの進言を踏まえ、二酸化炭素排出量削減目標について、2022年4月に以下のように改定しました。

2030年までに2013年度比95%削減

2035年カーボンニュートラル

環境管理責任者にあつては、上記の新たな目標を達成するための具体的な施策について、各エネルギーの担当者と協議の上、策定をお願いします。

② 環境経営目標及び環境経営計画

次年度にあつては、以下の点に注意して下さい。

2022年度において、数値目標を達成できなかった項目が2件(水使用量、グリーン調達)ありました。どちらも大変難しい課題であると認識してはいますが、知恵を出し合うことは忘れないでほしいと思います。

水使用量については、昨年度の環境経営目標を据え置きました。目標据置の状態がここしばらく続いてしまっている状態です。その間、新型コロナウイルス対策による手洗いの励行や、洗浄室でのミスト冷却等、使用量増大に繋がる変化が多数あったのも事実です。もし次年度目標未達の場合は、一度現状把握期間を設けることも必要と考えます。

グリーン調達については、環境配慮のために選定していた詰替え品購入時にグリーン調達率が下がってしまうというミスマッチ是正のため、新たに詰替え品をグリーン調達基準適合品に加えることとします。プラスチック資源循環法が施行され、世の中の廃プラに対する見方もかなりシビアになってきています。今回の変更が、弊社における廃プラ削減の一助となることを切に願います。

SDGsについては、2017年から継続している「私のSDGs」によって、各自様々なことに挑戦してくれており、とても頼もしい限りです。各自の日常生活に関する目標が主なので、会社として立ち入ることができない部分もありますが、環境管理責任者にあつては、時折各自の目標をフォローするための工夫があつても良いのではないかと思います。

SDGsで最も恐ろしいのは「ウォッシュ」、つまりやったふりであると聞きます。弊社では、1年に1回「ふり返り」を実施しており、各自正直に評価してくれているのでこうした心配はないと思いますが、何らかの監視機能はあつて然るべきかと思います。こちらについても、具体的な方法を検討して下さい。

CO₂排出量の削減目標

項目	※削減目標					
	基準年度	2023年度	2024年度	2025年度	2030年度	2035年度
CO ₂ 排出量	2013年度	63.0%削減	68.0%削減	73.0%削減	95.0%削減	100%削減

CO₂排出量については、2022年度は5.20kg-CO₂と遂に5t台までの削減に成功しました。9月に空調機器を更新し、灯油暖房器を廃止したこと、社用車を2台から1台に減らしたことが大きく貢献したものと思います。

2022年度は『脱炭素チャレンジカップ2023』にチャレンジし、見事環境大臣賞グランプリという快挙を成し遂げました。全員参加で脱炭素をはじめとした環境への取組に真剣に向き合い、努力した結果として大変満足しています。

しかし、あと5tのCO₂排出が残っていることも忘れてはなりません。残っている部分は、フォークリフト燃料、湯沸し器、金型焼入れバーナー(LPG)と社用車燃料(ガソリン)になります。費用の問題、また金型の焼入れにおいては代替策の問題があり、簡単な問題でないことは認識していますが、これらの更新時期にあっては脱炭素が進む方向の判断を実行することを社長として約束します。それまでは節約に努め、運用改善でCO₂排出量削減に努めるよう、努力して下さい。

※(環境管理責任者追記)削減目標の根拠について

CO₂排出量の基準年度(2013年度)とゴール(2030年度)については、国の地球温暖化対策計画(2021年4月策定)と整合させました。

弊社の2015年度のCO₂排出量実績値(251,277kg-CO₂)をスタートラインとし、それを上記の目標年度(2030年)までの15年間で2013年度比95%削減させることを目標としています。

尚、2023年度以降の各年度の目標値は、2015年度の実績値である251,277kg-CO₂から2030年度までの目標値(163,168.5kg-CO₂)を減算し、その数値をスタートから目標年までの年数(15年間)で均等割りすることで、各年の年間目標値として設定したものです。

その他の項目削減目標

項目	基準年度	※削減目標		
		2023年度	2024年度	2025年度
電力	2015年度	原単位△8%	原単位△9%	原単位△10%
LPG	2010年度	原単位△13%	原単位△14%	原単位△15%
ガソリン	—	現状把握	新たな目標策定	新たな目標策定
事業系一般廃棄物	2014年度	総量△8%	総量△9%	総量△10%
産廃(廃ウエス)	2017年度	総量△4%	総量△5%	総量△6%
紙くず(リサイクル率)	2010年度	11%向上	12%向上	13%向上
廃アルミ	2010年度	原単位△13%	原単位△14%	原単位△15%
水*	2015年度	原単位△4%	原単位△5%	原単位△6%
炭化水素	2017年度	原単位△6%	原単位△7%	原単位△8%
潤滑油	2010年度	原単位△12%	原単位△13%	原単位△14%
グリーン調達率	—	現状把握	新たな目標策定	新たな目標策定

※(環境管理責任者追記)削減目標について

- 昨年度未達の項目(*)については、前年度(2022年度)の目標値をスライドしています。
- 削減目標に「原単位」とあるものの原単位については、下記の原単位を目標値とします。

電力、廃アルミ、潤滑油(ラタック) : 洗浄袋数(調整)原単位
当レポート28頁参照。

炭化水素 : 洗浄袋数(調整不要)原単位
(使用量(ℓ)÷洗浄袋数(袋))

LPG、灯油 : 稼働日原単位
(使用量÷稼働日(日))

水 : 稼働時間原単位
(使用量(m³)÷稼働時間(h))

9.代表者レビュー

③ 実施体制

2022年1月に代表者(会長→社長)、3月に製造部門責任者(来 淳一郎→来 尊重)を、それぞれ変更しました。

代表者については、認証取得当初から代表者であったということもあり、前社長が会長就任後もそのまま留任という形をとっていましたが、指示系統を一本化する目的で変更を決意したものです。私の指揮の下、2035年カーボンニュートラルの目標必達に向け、脱炭素化を強力に推進することを約束します。

また、製造部門責任者については、前任が洗浄責任者ということもあり、常時製造部門全体に目を配ることがなかなか難しいとの本人からの申し出があったことから、製造部門中堅社員から人選し、変更する運びとなったものです。

環境経営組織に関して、責任者クラスの変更はエコアクション21認証取得後初となります。この変更を、弊社エコアクション21の更なる発展に繋がられるように、引続き指導していきます。

来ハトメ環境トピックス2022

② 「疑心」が「自信」に変わった日

～『脱炭素チャレンジカップ2023』挑戦記(2)～

決戦当日 朝の一コマ

12月にファイナリストとして選出頂いた後、写真提供に始まり、プレゼン動画作成、2度にわたるオンラインテストといった、様々なイベントがあった2カ月間。本番が近づくとつれ、否が応でも日に日に脱炭素チャレンジカップモードとなっていたことは言うまでもありません。

本番1週間前からスタートした1分間プレゼンの練習は、本番に近付いても上手くいく気配は一向に見られず、噛んだり、詰まったりの連続……。そんな状態で遂に、脱炭素チャレンジカップ2023当日、2月16日を迎えたのでした。

その日の朝、私は非常に変わった光景を目の当たりにしました。当日を迎え、プレゼンの最終調整をしながら車を走らせていると、遠くに見えてきたのはごみ収集場の煙突から上がる煙。煙が上がっているのはこの時間恒例のことで、何も珍しいことではありません。その日の天候や風向きによって毎日様々な形を見せてくれるこの煙、その日に限って、煙突から真っすぐ天に向かって上っていくように上がっているではありませんか。

「もしかしたら、これは何かの前触れ？」全く根拠はありませんが、そんな思いを抱きながらPCのセッティングや会場の設営を済ませ、いざ本番の時を迎えることとなりました。

『脱炭素チャレンジカップ2023』開幕

この『脱炭素チャレンジカップ2023』今回で13回目を数えるこの大会、最高賞の「グランプリ」を目指し、全国199団体からの応募があったといえます。

その内、ファイナリストに選出され、本大会の場に立つことを許されたのは、当社を含めて29団体のみ。そんな特別な舞台が、いよいよ幕を開けました。

さすがに幾度かのリハーサルを経て迎えた本番。オンラインではありませんが作り込みは実に秀逸。まるでその場にいるかのような臨場感を感じながら、いよいよファイナリストのプレゼンがスタート。この場で取組の紹介ができるのは倍率にすると実に6.86倍の狭き門をくぐり抜けてきた「一味も二味も違う猛者」ばかり。よく工夫された秀逸な取組であることはもちろん、本戦に賭ける意気込み、プレゼン力、そしてユーモアセンス、どれを取っても一流揃い、でした。

弊社の出番は17番目。すなわち、16団体の素晴らしい取組を目の当たりにした後やってくるという訳です。自分が劣っていると思ってしまうとどんどん弱気がこみあげてくるもの。次から次へとこみあげてくる弱気を必死で抑えながら、その時

をじっと待つ。その時間が、どんなに不安で、長く感じたことか……。

扉前に社長が会場(会議室)に入場。それでも緊張はどうすることもできず、いよいよその時を迎えることとなりました。

エントリーNO.17 来ハトメ工業株式会社



弊社に与えられた時間はちょうど正午にかかる4分間。年末年始にかけてナレーターを務めてくださった岡本さんをはじめ従業員全員に協力してもらって制作したプレゼン動画が会場に流れ、我々はその映像を画面で確認。幸い完成度はともかく映りは良好。トラブルなく3分の放映が無事終了すると映像が切り替わり、弊社の会議室の様子が会場のスクリーンに大写しにされました。その時の写真が下の写真。社長の柔和な表情と対照的な引きつった笑顔。緊張が顔に出ています……。

そして、司会の「どうぞ!」の合図で、いよいよ1週間車内特訓の集大成とも言うべき1分間プレゼンがスタートしたのでした。



届け！脱炭素への想い～1分間プレゼン～

構想2週間、総製作費約¥2,000円の弊社が誇る超大作、楽しんで頂けたでしょうか？

ご覧頂きました通り弊社はどこは古の風情が漂う中小町工場ではありますが、世の中に貢献したいという想いと環境にかける情熱ならどこにも負けない！そう断言できます。

いつかは環境優良企業になりたい！そんな思いで今日まで続けてきたのが年間約40回にも及ぶ環境教育です。地道な取組ではありますが、CO₂排出量97%削減という結果こそがその努力の証！そう断言できます。

そんな弊社の次なる目標は2035年度カーボンニュートラルの達成！高い目標実現に向けこれからも従業員一同全力で突っ走っていきますので、今後も弊社の取組に御注目ください。本日はありがとうございました。

年明けから原稿の構想をスタートさせ、本番一週間前までに1分間で読み切れる分量にまとめ上げ、当日までの1週間で練習を何度も繰り返したプレゼンの内容は、概ねこんな感じ。こちらの発した声が遅れてやってくる感覚や、映像を見ながら言葉を発すると、声同様若干遅れて見えるというリモート独特の感覚を、事前のリハーサルで体感できたことが奏功し、1分間プレゼンについても大きなミスなく無事終了。弊社の脱炭素への想いは伝え切ることができたのではないかと個人的には思っています。

しかし、これはあくまで見かけ上の話。実はプレゼンの途中、覚えたフレーズが一瞬吹っ飛びそうになり、「やばい……」と肝を冷やすシーンがあったのです。しかし、その時横に目を遣ると頷きながら聞いてくれている社長が。いつも通りの社長の姿に平常心と共に頭に叩き込んだフレーズも無事取り戻し、大きな失敗を回避することができました。

かくして、今回の大役(?)は無事終了。しかし、我々の前も後ろも全て強敵揃い。弊社を挟んで前後2社の発表を見て「どこもすごいね……」という言葉を残し、社長は会場を後にしてしまいました。敗戦を確信したかのような社長の後ろ姿が実に印象的でした。

その後私一人となった弊社会場では、この後も他団体様のハイレベルな取組、秀逸なプレゼンが最後まで続きました。29団体の発表が全て終わり、講演、パネルディスカッションを経ていよいよ表彰式。賞なしを覚悟して臨んだその場で、誰も予想だにできなかったでありましようとなんでもない番狂わせが起こったのでした。

「疑心」が「自信」に～グランプリ受賞～

『脱炭素チャレンジカップ』に挑戦させて頂いた者として、誰かにこの表彰制度の特徴を問われたら、迷うことなくこう答えることでしょう。「賞の種類が非常に多いこと」と。

そう、下に示した通り、ビックリするほど賞の数が多い、すなわち受賞できるチャンスも多い表彰制度なのです。とは言え、単純に賞の数を数えると、エントリー団体数よりも微妙に少ない数だったりする。ということは……？

と、色々考えながら迎えた表彰式。節分が過ぎ2月も半ば過ぎのこの時期、年明け頃と比べてだいぶ日は長くなってきたとは言え、まだまだ冬真っ只中。外が少し薄暗くなり始めたのを感じながら、弊社特設会場では生配信のPC画面に注視する私の姿がありました。

声高らかに受賞団体名を読み上げる司会の声が受賞団体の歓喜へと変わり、それと同時に、賞が一つずつ消えていく。そして、弊社の名前はいつまで経っても読み上げられることはない……。

「頭の中で想像していることは必ず実現する」よく耳にするこんな言葉を頭によぎらせながら、いつしか賞なしの恐怖と闘っている自分が、そこにはいました。

表彰	賞名	副賞
環境大臣賞	グランプリ	トロフィー及び受賞標準使用権
	金賞(各部門の最優秀賞 計4団体)	
文部科学大臣賞	社会活動分野	トロフィー及び受賞標準使用権
	学校活動分野	
企業/団体賞	セブンイレブン記念財団 最優秀地域活性化賞	広報誌「みどりの風」紙面への記事掲載
	ユニ・チャーム 最優秀やさしさでささえる賞	ユニ・チャームHP内での活動紹介
	ニトリ最優秀夢・未来賞	記念品贈呈
	勝田環境カーボンニュートラル賞	自社オリジナル乾燥機(干し芋)の提供
	日本WPA最優秀未来へのはばたき賞	HPでの紹介及び、特製盾の贈呈
	ユタコロジー最優秀チャレンジ賞	HP・社外報での取組紹介
	レンゴ最優秀脱炭素未来づくり賞	段ボール製トロフィーの贈呈
	いのちをつなぐSARAYA賞	エコブランド「ハッピーエレファント」シリーズ商品の贈呈
	炭素会計アドバイザー協会賞	準備中
	SOMPO環境財団最優秀わくわく未来賞	記念品贈呈
	ウエストボックス最優秀CO ₂ の見える化賞	木製の記念楯の贈呈及びHP掲載
	オルタナ最優秀ストーリー賞	雑誌「オルタナ」への記事掲載と冊子提供
	気象キャスターネットワーク最優秀市民・学校エコ活動賞	気象キャスターによる出前講座の実施
	再エネ100宣言RE Action賞	インタビュー動画作成
オーディエンス賞	マクドナルドオーディエンス賞	ハンバーガーご招待券1年分
審査委員特別賞	審査委員特別賞	表彰状の授与
優秀賞	優秀賞	表彰状の授与

「脱炭素チャレンジカップ2023」の各賞(「ファイナリストマニュアル」よ

「もしかしたら、「疑心」は「疑心」のまま終わってしまうのか……？」

表彰式もいよいよ大詰め。グランプリの発表を残すのみ。この強敵を前にして、まさか弊社が最高賞のグランプリなんてあり得るわけがない！明日社長に報告するための敗戦の弁を練りながら耳を傾けていたそのとき、司会の口から予想だにできなかった言葉が聞こえてきたのです。

「環境大臣賞グランプリは……、埼玉県からのエントリー、来ハトメ工業株式会社！！」

すると画面が弊社特設会場へと切り替わり、私の姿が映し出されているではありませんか。そう、賞に応募する際に抱いていた「疑心」が「自信」に変わる瞬間が遂にやってきたのです。

通勤途中の煙の暗示から始まり、不安、緊張、達成感、絶望感、驚き、喜び……目まぐるしいほどにさまざまな感情を味わった『脱炭素チャレンジカップ2023』と共に過ごした長い一日がこうしてようやく終わりました。まずは家族に喜びの報告を、とばかりに帰宅後家族に会うなり開口一番

「大変なことが起こってしまった。実はグランプリ取ってしまった！」

驚きと共に温かい祝福をくれた家族は早速、アップされたばかりのYoutube録画配信でその様子をチェックし始めました。

「あ、お父さんだ！」

そう言いながら弊社の発表や表彰式の様子を食い入るように見てくれている嫁と娘。しかし、ある瞬間

「何、これ……？」

と言いながら大爆笑する始末。その瞬間こそ、下の写真の両腕ガッツポーズ。

かくして私の渾身の喜びの表現は家族(など)の格好のネタとなってしまう始末に……。折角のグランプリでこの姿が後世まで残ってしまうのは、正直ちょっと辛い、ですわ……。



ちょっと(かなり)恥ずかしい受賞後記念撮影

グランプリ後日談

当レポートで何度もアピールしてきたホームページリニューアル。見栄えが変わったというのはあくまで外見上の変化で、詳細なアクセス解析ができるなど、実は見えないところもかなり様変わりしているんです。このアクセス解析機能とやらを使って、脱炭素チャレンジカップグランプリの日のアクセス数を確認してみると、アクセス件数はいつもの5倍ほど。これだけでも『脱炭素チャレンジカップ』の反響は大きかった！と言えるかと思えます。

受賞後は受賞インタビューあり、ラジオ取材(46頁参照)あり、某社発行の月刊誌(発行部数かなり多目の有名誌です)の取材依頼あり、受賞事業者様との交流あり……と想像を絶するほどの多くの機会と反響を頂戴しました。

下の写真は、受賞インタビューの際に撮影頂いた写真。記念品の立派な木製盾、弊社社長が大絶賛でした。



こうした反響で世の中の脱炭素化の波の大きさを再確認した弊社。グランプリという身の丈を遥かに超える名誉を手にし、残り5tに迫ったCO₂排出をゼロにするという次なる目標に向け、また静かに動き出しているところです。

って、このお話を格好よく終わらせようとしたが、そんなに格好よく終わるほど都合の良い話、弊社にはあっても自分には全くなかったのです。

例の両腕ガッツポーズは家族にネタにされただけでなく、会社の従業員からも格好のネタにされる始末……。表紙の写真(『脱炭素チャレンジカップ2023』受賞記念に撮ったものです)でもガッツポーズをしている人がちらほら見えるのは、実はそんな理由からなんだ、とか……。